

北海道の民俗芸能一覧(「北海道民俗芸能緊急調査」(H7~9)のフォローアップ集計)

平成30年11月21日現在

No.	支庁名	市町村名	合併後	種別	名称	ふりがな	伝承地域	主な公開場所	主な公開期日	祭り・行事	由来地	芸能の歴史	保存団体等	記録資料等	指定
001	石狩	札幌市		風流	丘珠獅子舞	おかだまし まい	丘珠	丘珠神社 境内	新暦9月15 日	丘珠神 社秋季 例大祭	富山県	明治25年、富山県の小矢部川左岸の福野町安居を中心に福光町、 城端町、井波町、左川町などの地域からの移住者によって丘珠村に 持ち込まれた。昭和40年に保存会と組織名を改め、昭和49年10月25 日札幌市指定無形文化財に指定される。	札幌市無形 文化財丘珠 獅子舞保存 会	「丘珠獅子 舞百年の歩 み」、映像 「丘珠獅子 舞」(市)	市
002	石狩	札幌市		風流	篠路獅子舞	しのろしまい	烈々 布	篠路神社 境内	新暦9月8日	篠路神 社秋祭り	富山県	明治34年、若連を中心に始められ、100年にわたって舞継がれ、今 日に至っている。富山県の数ある獅子舞のどれに当たるか明らかで はないが、東礪波郡城端町西明の獅子舞に極めて似ているといわれ ている。 昭和41年11月、篠路神社に烈々布神社を合祀してからは、「烈々布 獅子舞」から「篠路獅子舞」と呼ばれるようになった。	篠路獅子舞 保存会	「篠路烈々 布百年史」	
003	石狩	札幌市		アイヌ 民俗 芸能	アイヌ古式舞 踊	あいぬこしき ぶよう	札幌	不定	アイヌ文化 に関わる行 事の際	アシリ チェップ ノミ ほか	北海道		札幌ウホボ 保存会		国
004	石狩	千歳市		風流	泉郷獅子舞	いずみさとし まい	泉郷	泉郷地区 会戸 (門付け)と 泉郷 神社境内	新暦9月 20.21日	泉郷神 社秋祭り	富山県	明治29年頃、富山県から泉郷地区に入植した山越次郎が伝えたとい う説が有力。富山県では既に伝承されていない獅子舞が残っている。 保存会が富山県で行った調査によると、原型は富山県南西部の 砺波地方南西部城端町、福光町、北飛騨山中の五箇山に分布。	泉郷獅子舞 保存会	泉郷獅子舞 報告書「泉 郷獅子舞」	市
005	石狩	千歳市		アイヌ 民俗 芸能	アイヌ古式舞 踊	あいぬこしき ぶよう	蘭越	不定	アイヌ文化 に関わる行 事の際	アシリ チェップ ノミ ほか	北海道		千歳アイヌ 文化伝承保 存会	アイヌ古式 舞踊調査報 告書(Ⅱ)	国
006	石狩	石狩市		風流	石狩越後盆 踊	いしかりえち ごぼんおどり	本町	本町地区 内の広場	旧暦7月15 日前後 (石狩さけまつ りの際)		新潟県	江戸から明治時代に石狩町本町地区に移住した新潟県北蒲原郡出 身者によって伝えられた。昭和初期までは盛んに踊られ、8月7日から 20日まで夜を徹して踊られたという。	石狩越後盆 踊保存会	ビデオ、録 音テープ (町)	
007	石狩	江別市		神楽	野幌太々神 楽	のっぼろだい だいかくら	野幌	野幌神社 境内	4月25日 8月31日、9月 1日	野幌神 社春 秋季例 祭 秋季例 大祭	新潟県	明治31年8月、野幌神社例大祭に奉納したのが始まり。東西野幌地 区の開拓に入植した北越種民社の故郷、新潟県中越地方の神楽の 伝統を受け継ぐ。 戦中・戦後、一時期消滅の危機に見舞われたが、青年有志により 昭和32年「野幌太々神楽保存会」が結成され、今日まで20舞を保存・ 伝承。	野幌太々神 楽保存会	「野幌太々 神楽百年史」、ビデオ	市
008	石狩	恵庭市		風流	恵庭岳太鼓	えにわだだけ いこ	恵庭	恵庭市内 外における イベント等	年間を通じ て公開	花と暮らし 展 豊栄神 社秋季 例大祭	北海道	恵庭岳太鼓は、力強く発展する恵庭を象徴する郷土芸能として昭和 59年に創設。 「青少年の健全育成」「文化の振興」「商工業の発展」を願って、躍進 する恵庭にふさわしく、現代的で躍動感あふれる振り付けが特徴。	恵庭岳太鼓 保存会		
009	渡島	松前町		神楽	松前神楽	まつまえかぐ ら	松前 町ほか 道南	本来は神 社拝殿	さくら祭り 各神社の祭 礼	町内各 神社祭 典	北海道	『新羅之記録』では、寛永2年(1625)に八幡神社境内に神楽殿を建て た記録が見え、「福山秘府」には延宝2年(1674)に城内で神楽が藩 の公式行事として執行された記録が見える。各社家の神楽の発祥に 関する記述の一致ではなく、少なくとも近世初期には松前藩領では神 楽が行われていたようだ。	松前町松前 神楽保存会	新羅之秘 録、福山秘 府等 ビデオ(保 存会)	国
010	渡島	松前町		風流	江良杵振舞	えらねふり まい	江良	町内の街 頭ステージ	さくら祭り 新暦9月14 日 ほか	江良八 幡神 社祭 典、 慶事、 イベント	北海道	正確な来歴は不詳。古くは「白神タナバタ」のように荒馬、太刀振舞が 消滅し、杵振舞のみが「松前神楽」(四箇散米舞)の音曲と結合して 独自に発達してきたものと見られる。	江良八幡神 社杵振舞保 存会	ビデオ(町)	町
011	渡島	松前町		風流	月島奴振り	つきしまやっ こぶり	月島	町内の街 頭	さくら祭り ほか	慶事、 イベント	北海道	旧福山城下の黄向、泊川町内(現月島)は、下級武士層の集住して いた地域であり、これらの人々によって奥行行列が担われていた。鉄 箱以下の諸道具は旧藩時代のものが月島町内に伝えられており、同 地区の青年層によって保存伝承され今に至っている。	月島奴振保 存会	ビデオ(町)	町
012	渡島	松前町		風流	白神タナバ タ	しらがみたな ばた	白神	町内の街 頭	新暦7月 17,18日	白神三 社神 社祭 礼	不詳	幕末の頃から白神地区に伝えられという来歴は不詳。舞の構成の中 で、福島町白神地区に伝えられる「荒馬」と衣装、道具が類似して おり、何らかの関連があると見られる。また津軽地方の今別町の共 同芸能の中に駒踊り、棒振りがあり、これらの舞の影響を受けた可 能性がある。	白神タナバ タ保存委員 会	松前町史通 説編一巻下	町
013	渡島	松前町		その他	松前追分節	まつまえおい わけぶし	松前 町	不定	不定期	不詳	不詳	来歴不詳。松前三下りと同様の経路を辿り、北海道へ伝えられと考 えられる。	松前郷土芸 能保存会	北海道の民 謡「民謡緊 急調査報告 書」録音 テープ (町)	町
014	渡島	松前町		その他	松前三下がり	まつまえさん さがり	松前 町	不定	不定期	不詳	不詳	来歴不詳。江戸時代より「松前追分」とともに松前町内で歌い継が れている。北前船の交易を通じて北海道へ伝わったと考えられている。 幕末頃から座敷唄として庶民の間で唄われてきた。	松前郷土芸 能保存会	北海道の民 謡「民謡緊 急調査報告 書」録音 テープ (町)	町
015	渡島	松前町		風流	松前祇園ば やし	まつまえぎお んばやし	唐津	町内の街 頭(祭り)	さくら祭り 新暦8月15 日 ほか	松前城 下まつり	不詳	来歴不詳。文化年間「松前歳時草稿」には当時の松前城下の祭典 「七社祭り」の記録が見える。恐らくこれ以前から祭礼が執行され 松前祇園ばやしも演奏されたといわれている。曲は前記12曲の他に3曲 あったというが、現在は伝承されていない。明治以降本格的な山車 運行が行われる機会が少なくなり、これに伴って演奏の場が減ったが 保存会の有志の人々によって伝承されている。	松前郷土芸 能保存会	松前歳時記 草稿	道
016	渡島	松前町		風流	松前沖揚げ 音頭	まつまえおき あげおんど	大磯	町内の街 頭	さくら祭り ほか	慶事、 イベント	北海道	松前藩政時代、日本海沿岸地で盛んだったニシン漁業が大規模にな るにしがたい、おおぜいの人員(ヤン衆)を必要とし厳しい一連の作 業(船漕ぎ、網こし等)の中から、それぞれ特有の歌がうまれた。こ れらの作業歌が「鎌場音頭」「沖揚げ音頭」と呼ばれるもので、道南各 地から北海道沿岸各地に伝えられている。この歌の発祥、松前地方 で何時ごろから歌われていたか不明だが、現在、保存会の有志によ って保存伝承されている。	松前沖揚げ 音頭保存会	ビデオ(保 存会)	町
017	渡島	福島町		神楽	松前神楽	まつまえかぐ ら	福島	町内各神 社	新暦1月5 月、9月	町内各 神社例 大祭	北海道	神社の祭祀として行われる神楽が、北海道開拓期の藩政時代に独 立の発達を遂げ、33神事にまとめられ、各社家によって伝承された。 蝦夷地鎮定、登壇退散、天下太平など祈願をこめ、社殿神前におい ても舞われ現在に至っている。	福島町無形 文化財正統 松前	正統松前神 楽	国
018	渡島	福島町		風流	福島大神宮 例大祭行列	ふくしまだい じんぐうれいた いさい	福島 町	町内一円	各町内各 神社祭 礼時	町内各 神社例 大祭	北海道	京都風芸術的影響を受けた開拓前期の古文化の特色を表現し、 古式由来をそのまま使用され、他地の何れにもみられない特色を 持っている。	福島大神宮 祭礼行列保 存会	ビデオ(町)	町
019	渡島	福島町		風流	白符荒馬踊	しらふあらう まおどり	白符	白符地区	新暦7月7日	白符大 神宮例 祭	北海道	本家は白符七夕祭りの一部として発達したものであり、鎌倉華やかな り頃には、近隣各村で行われていたが、現在は祭礼行事として伝 承されている。	福島白符荒 馬踊保存会	ビデオ(町)	町
020	渡島	福島町		語り 物・祝 福芸	松浦七福神 舞	まつうらしち ふくんまい	松浦	町内一円	町内イベント 時青		青森県	明治初期、青森県より移住してきた人々が唄い唄として持ち込んだも のを、昭和初期に当村の氏神様の250年の祭礼に踊りを振り付けし て祭りを盛り上げたのが始まり。現在は活動を中止している。	松浦七福神 保存会(廃 絶)	ビデオ(町) 録音テープ (道)	
021	渡島	知内町		神楽	松前神楽	まつまえかぐ ら	元町	雷公、 小谷石、 湯ノ里	新暦5月5 日、9月14 日、18日、22 日、11月23日	春秋祭、 新嘗祭、 湯ノ里、 小谷石 神社例 大祭	北海道	松前藩の城内神楽の系統を継ぐ、江戸期の奉仕者は不明。 明治以降は氏子青年団が行うが、その後子ども達が行う。昭和36年 以降は神職のみで行ってきた。	雷公神社松 前神楽愛好 会	ビデオ・ DVD(町)	国
022	渡島	知内町		風流	四ヶ散米行列	しかさごぎよ れつ	元町	町内一巡	新暦9月22 日 雷公神社祭 典	秋祭り、 雷公神 社祭典	北海道	雷公神社の例大祭の門払いの巡行で行われる。松前藩政時代から 行われていたようで、城内神楽の系統を継ぐ、江戸期の奉仕者は不 明。明治以降は氏子青年団が行うが、その後子ども達が行っている。 現在に至る。	雷公神社	ビデオ、8 mm、16mm	

023	渡島	知内町		風流	七夕踊り	たなばたおどり	小谷石	小谷石巡行	新暦9月18日 小谷石神社祭典	秋祭り、小谷石祭典	北海道	大正時代福島町岡岡小学校から矢越小学校に赴任した沼田有造が教えたといわれる(「矢越小学校開校百周年記念誌」)。しかし調査の結果、松前藩解体で小谷石に定着した松前・吉岡方面からきた人が伝え、祭典の余興として踊られていたことが判明。現在は中絶。	休止			
024	渡島	上磯町	北斗市	風流	上磯奴	かみいそやっこ	北斗市	不定	不定期	夏祭り山車行列ほか	大阪府	嘉永6年(1853)に大坂より選ばれた御神輿と共に上磯奴と有川天満ばやしが上磯町に伝わったもので氏子たちが祭りを盛り上げるために奴行列を伝えた。	上磯奴保存会	ビデオ(町)	市	
025	渡島	上磯町	北斗市	風流	有川天満ばやし	ありかわてんまばやし	北斗市	有川神社境内ほか	新暦10月17日 有川大神宮の秋祭り	有川大神宮秋祭り	大阪府	嘉永6年(1854)に大坂より選ばれた御神輿と共に上磯奴と有川天満ばやしを上磯町に伝わったもので氏子たちが祭りを盛り上げるために奴行列を伝えた。	有川天満ばやし保存会	写譜(太鼓、鉦)(笛)録音テープ(町)	市	
026	渡島	大野町	北斗市	風流	大野ぎおんばやし	おおのぎおんばやし	北斗市	祭典時渡御行列の山車	新暦8月27,28日 意富比神社祭典	意富比神社祭典	京都府	享保年間(1716~1735)に伝えられたと推定される。北前船で京都との経済流通から大野に伝えられたといわれる。函館、上磯、江差にも伝えられたが現在は大野町だけに残る。	大野町ぎおんばやし保存会	ビデオ、録音テープ(町)	市	
027	渡島	南茅部町	函館市	神楽	木直大正神楽	きなおしたいしょうかぐら	木直	木直稲荷神社、白尻漁港	新暦6月,7月	函館南かやべひろめ舟祭り、木直稲荷神社祭典	青森県	大正元年、青森県南部地方に伝承する神楽を導入して創始、大正天皇即位を記念する意味で大正神楽と称される。以後、旧正月の行事として伝承される。	木直大正神楽保存会	木直大正神楽創始六十五周年記念	市	
028	渡島	南茅部町	函館市	風流	安浦駒踊り	やすつらこまおどり	安浦	安浦稲荷神社、白尻漁港	新暦6月	函館南かやべひろめ舟祭り、木直稲荷神社祭典	青森県	衣装、踊りの型より青森県三戸郡辺りの駒踊りの系譜をひくと推測。当初は盃盃盆、また昭和19年からは尾村神社祭典で踊られていたが、安浦地区に稲荷神社分社置以後は安浦稲荷神社祭典時に踊られている。	安浦駒踊り保存会	安浦駒踊り	市	
029	渡島	南茅部町	函館市	語り物・祝福芸	鱧釣り口説	たらつりくどき	古部木直	不定期	不定期		北海道	明治14年ころ、蝦法華村で流行していたものが古部、木直地区に伝わった。鱧漁で使用される道具などの変遷に従い、歌い手も少なくなっている。	タラツリ口説保存会(廃絶)	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」		
030	渡島	南茅部町	函館市	神楽	大船南部神楽	おおふねなんふかぐら	大船	大船稲荷神社、白尻漁港	新暦6月	函館南かやべひろめ舟祭り、安浦稲荷神社祭典	青森県	大正7,8年ころ、青森県南部地方より神楽を導入し伝承していた。戦後は途絶えたが、平成2年神楽の源流が青森県七戸町の神楽にあることを地元有志が探し当てて復興する。	大船南部神楽保存会			
031	渡島	鹿部町		風流	大岩奴子振り	おおいわやっこふり	鹿部大岩	町内	新暦7月8日	鹿部稲荷神社例大祭	青森県	安政時代、能戸藤右衛門が南部八戸より南茅部町白尻に移住し、広く地域に普及の努力をした。杉田秀雄もこれを伝承した一人であり昭和10年鹿部町に移住し青年団に伝承したのが始まり。その後大岩青年団を中心に昭和25年保存会が結成される。	大岩奴子振り保存会	大岩奴子振り伝統史		
032	渡島	砂原町	森町	風流	沼尻駒踊り	ぬまじりこまおどり	沼尻	白幡神社	新暦8月20日	白旗神社祭典	岩手県	昭和17年沼尻地区の故奥寺仁平がふるさとの岩手県九戸郡大野村から移入。	沼尻駒踊り保存会			
033	渡島	砂原町	森町	風流	掛潤道中奴	かかりまどうちゅうやっこ	掛潤	掛潤神社	新暦8月19日	掛潤神社祭典	北海道	昭和の始めより掛潤神社祭典に奴道中の奉納として当時の青年によって昭和48年頃まで行っていたが、途絶え、54年頃から祭りに奴行列を再現して欲しいという声により55年保存会結成。	掛潤奴保存会			
034	渡島	森町		風流	濁川越中神楽	にごりかわえちゅうかぐら	濁川	濁川神社	新暦9月15日	濁川神社祭典	富山県	明治43年濁川開拓者として入植した豆澤喜三郎(富山県前沢村)が師となり有志を募って富山県に伝わる越中神楽を伝承し、後神社祭礼に奉納するようになった。	濁川越中神楽保存会	録音テープ		
035	渡島	森町		その他	正調噴火湾沖揚げ音頭	せいちようふんかわんおきあげおんど	尾白内	公民館等	不定期		北海道	昭和41年、町民文化祭で初めて発表。51年保存会が結成される。	正調噴火湾沖揚げ音頭保存会(休止)	録音テープ		
036	渡島	長万部町		風流	長万部太鼓	おしまんべたいこ	長万部町	町内全地域巡回	新暦4月,8月,9月	長万部飯生神社祭典、長万部町総合文化祭	北海道	昭和57年設立、町内に保存されている郷土芸能がないので設立。伝統を継承するために、平成3年頃から小中学生の指導を始める。	長万部太鼓保存会(郷土芸能保存会)	ビデオ、録音テープ(町)		
037	渡島	木古内町		風流	みそぎ太鼓	みそぎたいこ	全町的	町内全地域	不定期	寒中みそぎ、イベント	北海道	佐々川神社に伝わる寒中みそぎ祭を盛り上げるため、昭和46年に立ち上げられた。「太鼓」と「囃子」とで構成される。	みそぎ太鼓の会	写真等		
038	渡島	熊石町	八雲町	風流	相沼奴	あいぬまやっこ	相沼	必要に応じて	新暦8月中旬	不定期に相沼八幡神社大祭で、小学生だけで実施	北海道	原型は奉納奴である。江差が繁栄を極めたころやん衆達によって安政6年相沼神社の神殿再建の祭典に奉納、お供えをした。	相沼奴保存会(休止)	熊石町史ビデオ(町)	町	
039	檜山	江差町		その他	江差追分	えさしおいわけ	江差町全町	江差追分会館等	江差追分全国大会(9月第三土・日)		新潟県	越後追分が北前船のより江差に伝わり、浜小屋などで海の男たちに唄われ、一方、「影の町」「源太夫町」の茶屋で商家の旦那衆、膝大、船頭衆の遊興の中で艶歌として花柳界に伝えられた。これが江差追分である。さらに越後の祝いの唄である謙良節が民衆に唄い込まれ北前船で江差に渡ってきた。琵琶師の座頭「佐之市」がこの2つの唄を母体として江差の風土の中で独特の情緒をもった江差追分を誕生させた。	江差追分会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」、ふるさと文化再興事業記録保存DVD(町教委)	道	
040	檜山	江差町		風流	江差餅つき囃子	えさしもちつきばやし	江差町全町	江差追分会館等	不定期(慶事等)		北海道	江差の大宅・親方衆(廻船問屋、廻船業者、大手商家、漁業経営者、仕込親方等)と言われる家々の年越しの餅つきは実に大業なもので、宵の口から翌日にかけて大量の餅をつき、餅つきの日はその家の年中行事として決められている。支給された新調の衣装に身を清め、芸者の三味線、笛、太鼓などの鳴り物に合わせのど自慢の唄を合いの手に景気よく揚げる。	江差餅つき囃子保存会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」、ふるさと文化再興事業記録保存DVD(町教委)	道	
041	檜山	江差町		その他	江差三下り	えさしさんさがり	江差町全町	江差追分会館等	不定期(慶事等)		新潟県	江差追分が完成する過程の元唄で追分節の母体であると伝えられている江差の民謡である。	江差三下り会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」	道	
042	檜山	江差町		その他	江差沖揚音頭	えさしおきあげおんど	五勝手地区	江差追分会館等	不定期(慶事等)		北海道	一連の漁漁撈、過酷な労働の持続、それを可能にしたのが音頭であり唄であった。厳し一連の労働を支える糧として音頭が生まれ、沖揚げ音頭として固定した。	江差沖揚音頭保存会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」	道	
043	檜山	江差町		風流	江差五勝手獅子舞	えさしごかってしまい	五勝手地区	江差追分会館等	不定期(慶事等)		青森県	とど川山、古樺山、五箇所山のヒノキアサノロ伐採のあったそまふによって、山神中心とする信仰と結合して発生した。「マサカリダテ」の神事や山神祭、「切りあげ」の神事、その他新年や祭事祝賀に獅子舞を修行し悪を払い、福を招き安全操業、五穀豊穡、海上安全、豊漁満作を祈願して今日に伝承された。	江差御勝手獅子舞保存会	江差町史	道	
044	檜山	江差町		風流	江差鹿子舞	えさししまい	豊川町	江差追分会館等	不定期(慶事等)		青森県	厚沢部川流域のヒノキアサノロ伐採にあつた袖夫によって、山神を中心とする信仰と結合して発生したもので、その他新年や祭事祝賀に獅子舞を修行し悪を払い、福を招き安全操業、五穀豊穡、海上安全、豊漁満作を祈願して今日に伝承された。	江差豊川町郷土芸能保存会(休止)	江差町史	町	
045	檜山	江差町		風流	江差土場鹿子舞	えさしどばしまい	柳崎町(土場)	江差追分会館等	不定期(慶事等)		青森県	厚沢部川流域のヒノキアサノロ伐採にあつた袖夫によって、山神を中心とする信仰と結合して発生したもので、その他新年や祭事祝賀に獅子舞を修行し悪を払い、福を招き安全操業、五穀豊穡、海上安全、豊漁満作を祈願して今日に伝承された。	江差土場鹿子舞保存会	江差町史	町	
046	檜山	江差町		風流	江差田沢鹿子舞	えさしたざわしまい	田沢町	江差追分会館等	不定期(慶事等)		青森県	とど川山、古樺山、五箇所山のヒノキアサノロ伐採のあったそまふによって、山神中心とする信仰と結合して発生したもので、「マサカリダテ」の神事や山神祭、「切りあげ」の神事、その他新年や祭事祝賀に獅子舞を修行し悪を払い、福を招き安全操業、五穀豊穡、海上安全、豊漁満作を祈願して今日に伝承された。	江差田沢鹿子舞保存会	江差町史	町	

047	檜山	江差町		風流	江差鮫踊り	えさしきめおどり	五勝手地区	江差追分会館等	不定期(慶事等)		北海道	鮫の舞を供養する意味で、鮫が編みの中でのたうち回る様を躍りに脚色して盃盆中、踊るようになった。	江差鮫踊り保存会	江差町の社会と民俗、ビデオ、録音テープ(町)	町
048	檜山	江差町		風流	笹山奴	ささやまやっこ	豊部内壁坂				北海道	笹山稲荷社の参道である豊部内の壁坂周辺に居住する笹山稲荷社崇敬する有志によって構成され、名誉ある大役として奉仕した。	休止	江差町史	
049	檜山	江差町		神楽	江差神楽	えさしかぐら	江差町全町				北海道	姥神大神宮の宮司によって伝承された神楽が江差神楽である。	姥神大神宮	江差町史	
050	檜山	江差町		風流	江差追分踊り	えさしおいわけおどり	江差町全町	江差追分会館等	不定期(慶事等)		北海道	文化文政の頃、江差経済繁栄のなかで座敷踊りとして芸妓の間で踊られたのが始まり。	江差追分踊り保存会	江差町史(町)	町
051	檜山	江差町		風流	江差祭り囃子	えさしまつりばやし	江差町全町	町内一円	新暦8月9~11日	姥神大神宮祭典	京都府	系統は京都の祇園囃子であると伝えられている。	各山車保存会	江差町史	
052	檜山	上ノ国町		風流	大留鹿子舞	おおどめしまい	大留	大留山神社境内大留地区を巡回	新暦9月11,12日	大留山神社例大祭	富山県	創始に関わる伝説は3つあり。	大留鹿子舞保存会		町
053	檜山	上ノ国町		風流	石崎奴	いしざきやっこ	石崎	石崎市街	新暦8月18日	石崎八幡神社祭礼	北海道	文化10年(1813)、石崎八幡神社が新築されたとき、松前平角が松前藩の祭典に使っていた、長柄、弓、鉄砲などを貰い受け神輿を先導しながらの行列が繰り返された。	石崎奴保存会	石崎奴誌	町
054	檜山	上ノ国町		風流	上ノ国昔踊り	かみのくにむかしおどり	上ノ国	大留町内	11月上旬	町民文化祭	北海道	コシャマインの戦いで勝利し凱旋する若い侍たちが舞い踊りながら天の川をわたる様を、人々が感動しはやした。後日、戦勝祝賀の宴にそのときの感動をそのままに人々が踊ったものが毎年の勝山の館神八幡宮の踊りとなり上ノ国の盆踊りとなったといわれている。	上ノ国昔踊り保存会	ビデオ(町)	
055	檜山	上ノ国町		神楽	神楽	かぐら	上ノ国	上ノ国八幡宮	新暦9月14,15日	上ノ国八幡宮例祭	北海道	松前神楽群の一つと考えられる。福山秘府近來寺社部卷之十八(明和5年)松前寛記に、上ノ国毘沙門に古来より月次の神楽があるが、館神と奥山王にはないので、正・五・九月に神楽を奉納できるよう書面をもって願が出されたと記されている。	松前神楽と呼ばれる神楽と津軽神楽の調査		
056	檜山	厚沢部町		風流	土橋鹿子舞	つちはのししまい	富栄	富栄墓地前新明神社境内	旧暦8月13日	新明神社祭り	青森県	延宝年間(1674年頃)津軽南部衆がこの地に移住した際に鹿子踊りを伝えたと考えられる。文化5年(1808)の記録に土橋の鹿子踊りが江差市中で踊られていることが記録されている。祭事祝賀、お盆にこれを舞い豊年満作、五穀豊穡を祈願して行われる。	富栄獅子舞保存会		町
057	檜山	厚沢部町		風流	安野呂の鹿子舞	あんのろのししまい	滝野	滝野墓地前	旧暦8月13日		青森県	時期は不明であるが、南部津軽より移住してきた袖夫、出稼ぎ者により伝承されたようである。豊年満作、五穀豊穡を祈願して行われる。	滝野鹿子舞保存会(休止)		町
058	檜山	厚沢部町		風流	赤沼の鹿子舞	あかぬめのししまい	赤沼	赤沼墓地前	旧暦8月13日	赤沼神社例祭	青森県	天保年間(1837~1844)意向陸奥南部、青森地方からの移住者により伝えられたと考えられる。赤沼伝承の固有鹿子舞は中絶し、明治44年、踊りの似ている安野呂の鹿子の下鹿子となる。	赤沼の鹿子舞保存会(休止)		町
059	檜山	厚沢部町		風流	当路の鹿子舞	どうろのししまい	当路	当路墓地前農協前	旧暦8月13日 新暦9月23日		大山祇 北海道	明治30年厚沢部川流域の檜山伐採木材移送河口の土場の鹿子舞を分けてもらい現在に至る。	当路鹿子舞保存会		町
060	檜山	厚沢部町		風流	上俄虫鹿子舞	かみがむししまい	上里	上里墓地	旧暦8月13日 新暦9月9日		大山祇 陸奥福島	文化年間、陸奥福島郡の部落で納屋に保管していた3匹の鹿子が踊り出し、悪い予感がしたため鹿子を川に流したところ部落に災害が続き、祟りではないかといわれた。人々は供養をすべく鹿子舞を分け願い、福島から救えを受けたのが始まり。	上里獅子舞保存会		町
061	檜山	厚沢部町		風流	館の鹿子舞	たてのししまい	城丘	城丘墓地前神社境内	旧暦8月13日 新暦9月16日		北海道	明治34年町内土橋から鹿子分けにより継承され勢いのある踊りに改めた。	館鹿子舞保存会(休止)		
062	檜山	厚沢部町		神楽	美和権現獅子舞	みわごんげんまい	美和	美和墓地前美和神社祭典	旧暦8月13日 新暦9月7日	美和八幡神社例祭	福井県	美和(旧大字目名村)の草分けは天正年間、福井県若狭から移住した袖夫の言い伝え。獅子舞の由来は確実ではないが、集落の山奥に住んでいた行者がこの芸能を伝えたという。神楽系獅子舞の中でも権現舞を演目の中心とする修験系と称される。	美和権現獅子舞保存会		町
063	檜山	厚沢部町		神楽	南部神楽講	なんぶかぐらこう	城丘・ニセコ町狩太		9月9,10日		岩手県	岩手県神舞郡に起源をもつ。北海道において本格的に活動を始めたのは大正3年である。大正3年から昭和十年代にかけては狩太神社の祭礼で舞われ、昭和20年代以降は厚沢部町へ権現様と神楽面を移し祭礼や祝いの場で演じられていた。	休止	「佐々木時蔵 神楽声聞記」	
064	檜山	乙部町		風流	三鹿獅子舞	みしかししまい	豊浜	豊浜諏訪神社境内豊浜地区各戸	9月下旬	豊浜諏訪神社祭礼	北海道	約200年前、旅の信者が江差の笹山神社へ参詣の帰り道中で3匹の鹿を発見。この鹿を見た信者は3鹿獅子舞を創作し、この舞を一宮と名付けた。	三鹿獅子舞保存会	三鹿獅子舞歌詞(町)録音テープ(町)	
065	渡島	熊石町	八雲町	風流	相沼奴	あいぬまやっこ	相沼	熊石町字館平、相沼折戸地区順演	新暦8月中旬	相沼八幡神社大祭	北海道	原型は奉納奴である。江差が繁栄を極めたころや衆達によって安政6年相沼神社の神殿再建の祭典に奉納、お供えをした。	相沼奴保存会	熊石町史ビデオ(町)	町
066	檜山	大成町	せたな町	神楽	久遠神楽	くどうかぐら	せたな町大成区	必要に応じて	必要に応じて		北海道	久遠神楽は、1897(明治30)年頃、青森県三本木町からニシン漁のために移住してきた2人の青年が、故郷をしのび地元青年に故郷の神楽を教えたことが始まり。	久遠神楽保存会	ビデオ(保)DVD	町
067	檜山	瀬棚町	せたな町	その他	鯨網起こし音頭	にしんあみおこしおんど	せたな町瀬棚区島歌	必要に応じて	必要に応じて		北海道		瀬棚町鯨網起こし音頭保存会(休止)		
068	檜山	瀬棚町	せたな町	風流	須築もちつき囃子	すつきもちつきばやし	せたな町瀬棚区北島歌	不定	不定期(慶事)		北海道		須築もちつき囃子音頭保存会(休止)		
069	檜山	瀬棚町	せたな町	風流	瀬棚祭囃子	せたなまつりばやし	瀬棚区三本杉	事比羅神社境内一巡	新暦9月9,10日	事比羅神社祭典	青森県		事比羅神社		
070	檜山	瀬棚町	せたな町	神楽	松前神楽	まつまえかぐら	せたな町瀬棚区三本杉	必要に応じて	必要に応じて		北海道	松前神楽は、およそ500年前に武田氏が蝦夷を平定して十余の豪族を統一し、松前藩の基礎をついた時に始まり、そのころ戦勝を祈願して種々の火狂言や社人の舞を行ったのが起源と言われ、第10代藩主矩(のりひろ)公の時、古くから松前地方の各神社で行われていた神楽の演技種目を統一し、延宝2(1674)年11月15日、藩主自ら祭主になり境内の神樂を城本木大橋の間に集めて、鎮座式式松前神楽を修行したのが町内神楽のはじまりで、340年ほど前のこと。以来、各年毎に松前城内で行う祭行事と定め、明治維新の藩藩まで厳格されてきたが、藩廃後はこの神楽に参加した社家神職によって受け継がれ、現在は道南・後志の神社を中心に奉養されている。	松前神楽瀬棚保存会	写真・DVD	国
071	檜山	北檜山町	せたな町	その他	新成沖揚音頭	しんせいおきあげおんど	北檜山区新成	新成母と子の家	新暦2月初午		北海道	当初、太櫓沖揚音頭と呼ばれていましたが、太櫓地区に漁師がいなくなり新成地区の漁師が引き継いだことから新成沖揚音頭と呼ばれるようになりました。また、北檜山を代表する音頭であることから、北檜山沖揚音頭とも呼ばれている。	新成沖揚音頭保存会(休止)	録音テープ	
072	檜山	北檜山町	せたな町	その他	浮島竜神太鼓	うきしまりゆじたいこ	せたな町北檜山区愛知	必要に応じて	必要に応じて		北海道	昭和48(1973)年当時愛知中学校だった荒木修氏より、愛知青年会の下院が手解きを受け「浮島太鼓」を発表したのが始まりで、昭和50(1975)年登別市の「北海太鼓」の太鼓一刀市に指示していただくように、「浮島竜神太鼓」と改名した。	浮島竜神太鼓保存会	写真	

073	嶺山	北嶺山町	せたな町	その他	二俣風神太鼓	ふたまたふうじんたいこ	せたな町北嶺山区二俣	必要に応じて	必要に応じて	北海道	初めに二俣を切り開いた人々は、夏は豆類を育て冬は炭焼き・造材などをしてきたが、度重なる川の氾濫・凶作・虫害などに大変難儀したようである。このようなかたは天照大神を氏神として祀る本殿1坪5合、拝殿9坪の社を道楽部岳及び二俣岳を望む眺望絶景の地に建立し心の拠り所としたのである。年々9月10日を例祭として、出来秋に感謝の意を捧げると共に、翌年の五穀豊稔に強い願いを込めながら太鼓を打ち鳴らしていた。昭和57(1982)年に太鼓同好会に名前をつけようとした際「二俣風神太鼓」の名がつけられた。	二俣風神太鼓保存会	写真		
074	後志	小樽市		風流	高島越後盆踊りの行事	たかしまえちごぼんおどりのぎょうじ	高島地区	町内	旧暦の孟蘭盆時	新潟県	明治10年頃、新潟県北蒲原郡よりの移住者により伝えられた。手踊りなど他地域の芸能が混在しているという指摘もある。	高島越後踊り保存会	ビデオ(保)録音テープ(保)	市	
075	後志	小樽市		神楽	伊勢岩戸神楽	いせいわかぐら	高島地区	高島神社拝殿	夏期	新潟県	高島地区に伝承されたのは明治30年頃といわれる。新潟県北蒲原郡よりの移住者平野新二郎によって広まったといわれる。	廃絶	新高島町史(昭和61年)		
076	後志	小樽市		その他	忍路鯨漁撈の行事	おしよりにしんぎょうのぎょうじ	忍路地区蘭島地区	忍路地区海上忍路神社境内	新暦3月新暦7月随時	北海道	網降ろし忍路神社例大祭	江戸末期に道南から後志に鯨漁の中心が移動した時期に、沖上げ音頭を中心とした労働歌が成立したといわれる。忍路地区にもいつかの労働歌が伝えられニシン漁撈の不振とともに衰退、昭和49年に保存会が結成された。	忍路鯨漁の会	ビデオ「忍路鯨漁風景、海上渡御」	市
077	後志	小樽市		神楽	住吉神社太々神楽	すみよしんじやだいたいかがら	住ノ江地区住吉地区	住吉神社拝殿	新暦7月	住吉神社例大祭	新潟県	明治21年新潟県三条市八幡宮で行われた神楽を当時の宮司であった星野十九七氏が「三条神楽」として伝えた。翌年、住吉神社太々神楽」として改称。	住吉神社太々神楽保存会	ビデオ(市)	
078	後志	小樽市		神楽	松前神楽	まつまえかぐら	小樽市内	各神社の拝殿	随時	各神社祭礼等	北海道	17世紀後半に道南松前で演じられていた田楽踊り、能楽等が集成され成立。ニシン漁場の北進に伴って日本海沿岸に伝わっていった。小樽には明治26年福島町の常盤井家から伝承された。	松前神楽小樽保存会	ビデオ「小樽伝承百年記念事業記録」(市)	国
079	後志	寿都町		神楽	寿都松前神楽	すつまつまえかぐら	寿都町全域	寿都神社境内ほか	海の日(7月第三週月曜)前の週末、土曜日・日曜日	寿都神社例大祭	北海道	大正期、当時の神社神職が道南の松前神楽を習得し寿都神楽研究会を結成し、その後保存会と改称。福島大神宮常盤井武季の指導をえる。	寿都松前神楽保存会		国
080	後志	蘭越町		神楽	大南部神楽	おおなんぶかぐら	豊国	蘭越八幡神社豊国神社	新暦9月8日		青森県	大正初期、青森県上仙郡三本木藤島から南尻別村宇大南部(現蘭越町豊国)に入植した佐々木芳によって伝承される。	大南部神楽保存会	「郷土探索」第3号口	
081	後志	蘭越町		風流	下賀老獅子神楽	しもがろうし かぐら	目名	目名八幡神社	新暦9月15日	目名八幡神社祭典	青森県	大正3年、青森県黒石市から南尻別村目名下賀老(現蘭越町目名)に入植した花田長八によって伝承される。	下賀老獅子神楽保存会(休止)	ビデオ(町)	
082	後志	蘭越町		風流	讃岐瑞穂神楽	さぬきみずほかぐら	讃岐	目名八幡神社	新暦9月15日		香川県	明治32年香川県讃岐から入植した小野高介が讃岐郡落が安住の地になることを祈願して金刀比羅神社琴弾八幡宮を奉祝し祭典行事として獅子神楽を当地に移す。	讃岐瑞穂神楽保存会(休止)	目名町郷土史「讃岐瑞穂神楽」	
083	後志	蘭越町		その他	港沖揚げ音頭	みなとおきあげおんど	港町	不定	不定期		北海道	ニシンの大漁時代、船頭のかけ声で船こぎ、網こしに拍子を揃えニシンを陸揚げするまで一丸となって作業をするための労働歌。	港沖揚げ音頭保存会(休止)	ビデオ(町)	
084	後志	ニセコ町		風流	ニセコ赤坂奴	にせこあかさかやっこ	ニセコ町	ニセコ町内	新暦8月24.25日	ニセコ狩太神社祭	北海道	小樽住吉神社で赤坂奴の小頭をしていた者がニセコに移住し、昭和7年狩太神社祭で奉納したのが始まり。	ニセコ赤坂奴保存会	ビデオ	町
085	後志	真狩村		神楽	真狩村浦安の舞	まかりむらうらやすのまい	真狩	真狩村公民館ほか	新暦9月2月芸能発表	真狩神社祭	北海道	昭和15年紀元2600年祝典で披露。	浦安の舞保存会	真狩村史8mm像	村
086	後志	真狩村		風流	真狩赤坂奴	まかりあかさかやっこ	真狩	真狩村市街地ほか	新暦9月	真狩神社祭	北海道	昭和34年より例大祭の神輿行列に加わった。当初は真狩駐在所の渡辺勝美巡査が指導に当たっていた。	真狩赤坂奴保存会	真狩村史	村
087	後志	倶知安町		風流	倶知安町赤坂奴	くちやんちやうあかさかやっこ	八幡地区	倶知安町市街地全域	新暦7月末日	倶知安神社例大祭	北海道	小樽住吉神社で赤坂奴の小頭をしていた陶山増太郎らにより、昭和8年に伝承された。	倶知安町赤坂奴保存会		町
088	後志	岩内町		風流	岩内赤坂奴	いわないあかさかやっこ	岩内	岩内神社及び岩内町内	新暦7月7~9日	岩内神社例大祭	北海道	大正9年宮園に遷宮の折宮大工宮野次郎吉が青年に伝授したもの。	岩内赤坂奴保存会	ビデオ	町
089	後志	泊村		その他	沖揚音頭	おきあげおんど	歪地区	不定	不定期		北海道	昭和50年鯨漁経験者などにより保存会を結成。	泊村沖揚音頭保存会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」録音テープ(道)	
090	後志	神恵内村		神楽	神恵内松前神楽	かもえないまつまえかぐら	神恵内村	厳島神社境内	新暦7月14~16日	厳島神社例大祭	北海道	松前藩の城内神楽の系統を継ぐ、江戸期の奉仕者は不明。明治以降は神職、氏子青年団等が行っていたが、戦後子ども達が行うようになる。	神恵内村厳島神社神楽保存会		国
091	後志	神恵内村		その他	神恵内竜神鯨場沖揚音頭	かもえないりゅうじんしんばおきあげおんど	神恵内村	イベント広場	新暦7月第一日曜日	沖揚げ祭り	北海道	昭和55年に保存会が結成される。	神恵内竜神鯨場沖揚音頭保存会	ビデオ(町)	
092	後志	神恵内村		風流	川白神楽	かわしらかぐら	川白	川白稲荷神社境内	新暦7月11.12日	川白稲荷神社大祭	北海道	鯨漁全盛期に松前神楽と南部神楽を併せた形で伝承された。	川白神楽保存会(廃絶)	録音テープ(廃絶)	
093	後志	積丹町		その他	鯨場音頭	にしんばおんど	美国地区	美国漁港	新暦8月第三土曜日お神威ソーラン祭り		北海道	地元の一連の作業歌を積丹町鯨場音頭として保存伝承しようとするもので昭和31年保存会が結成される。	積丹町鯨場音頭保存会	鯨場と共に(昭和60年)録音テープ(道)	町
094	後志	積丹町		神楽	神威神楽	かむいかぐら	余別町、神岬町、来口	余別町、神岬町、来口	新暦7月16~18日	神威神社祭典	青森県	明治中期、青森県南部地方から伝来し当時は親方達の家で舞われていた。	神威神楽子供保存会		
095	後志	積丹町		風流	神岬もちつき踊り	こうざきもちつきおどり	神岬地区				青森県	明治時代、青森県から鯨漁にきた若い衆によって踊られ現在に受け継がれる。	神岬町婦人部(休止)		
096	後志	古平町		風流	正調越後盆踊り	せいちようえちごぼんおどり	古平町	公園等	新暦8月14~20日		新潟県	新潟県十日町新保の曹洞宗広大寺に元禄年間より伝わる天神ばやしの一部よいやき踊りで、それが新潟各地に伝わりさらに古平、小樽、釧路へと伝わる。	古平町正調越後盆踊り保存会		
097	後志	余市町		その他	正調ソーラン節	せいちようそらんぶし	豊浜町	不定	不定期		北海道	明治初期からニシン漁場ユナイ浜(現豊浜町)で働く人々の作業歌として唄い継がれてきた。	余市町正調ソーラン沖揚げ音頭保存会	北海道の民謡「民謡緊急調査報告書」録音テープ(町)	
098	空知	岩見沢市		その他	岩見沢雅楽	いわみざわががく	大願町				福井県	明治42年、福井県、富山県から移住してきた人々を中心に素人の趣味として娯楽された。大正2年、浄土真宗東西本願寺で法要が行われ、岩見沢の末寺明了寺で雅楽を奏することになり講師を招き受講した人達で保存会が結成された。	岩見沢雅楽会(休止)	楽器別楽譜(保)	市
099	空知	岩見沢市		風流	大願獅子舞	おおねがいししまい	大願町	大願神社境内	新暦9月8日9月15日		富山県	富前松次郎が明治41年、富山県射水郡水見十二町村から大願に移住。	大願獅子舞保存会	大願獅子舞沿革史、大願町会史	
100	空知	岩見沢市		風流	金子獅子舞	かねこしまい	金子町				富山県	明治31年、越中富山の水見市の在郷田地方に伝わるものを導入。越中獅子舞の流れをくむ。	休止		
101	空知	美唄市		風流	峰延獅子舞	みねのぶしまい	峰延町	歌舞裸まつりふるさとみねのぶ夏まつり	8月上旬		富山県	明治33年峰延禪戸道路の宮浦善太郎が郷里の富山県東砺波郡福野町から自費で道具一式を取り寄せ地元で伝承。	峰延獅子舞保存会	郷土史「峰延」(昭和51年)	市

102	空知	美唄市	風流	峰延東傘踊り	みねのぶひがし かさおどり	峰延町 峰延町本町	ふるさとみねのぶ夏まつり	8月中旬	ふるさとみねのぶ夏まつりほか	鳥取県	鳥取県因幡より移住してきた杉本新太郎、矢部寿美ら5、6人が故郷で習った踊りを踊ったのが始まりで、お盆になると地域の初盆の家を回った。	峰延東傘踊り保存会	峰延東連合会郷土史	市
103	空知	芦別市	風流	芦別獅子	あしべつし	本町地区	芦別神社境内	新暦9月6日	芦別神社例大祭 芦別健康夏まつり	富山県	明治28年、富山県砺波地方から入植した人々により始められ、明治33年から舞い始められた。	芦別獅子保存会	ビデオ(市)、百年記念誌	市
104	空知	赤平市	風流	茂尻出雲獅子	もしりいずもし	茂尻				富山県	大正7年、大倉鉱業所従業員のうち富山県出身者により始められる。	住吉獅子舞保存会(休止)		
105	空知	赤平市	風流	住吉獅子舞	すみよししまい	住吉町	住吉神社境内	新暦9月		石川県	明治28年、市内住吉地区に入植した加賀団体の開拓民が、神社建立と共に郷里の越中獅子をうつし、明治41年に舞い始めた。	住吉獅子舞保存会	住吉獅子舞奉納70周年記念誌	市
106	空知	深川市	風流	狸々獅子五段くずし舞	しゅうじょうし ごだんくずしまい	一己町	大國神社境内	新暦9月	大國神社例大祭	香川県	明治28・29年に一日に入植した屯田兵が香川県の獅子舞を受け継ぎ、明治39年から舞い始めた。	狸々獅子舞五段くずし保存会	空知の文化財シリーズ10「空知の指定文化財」	市
107	空知	深川市	風流	多度志獅子舞	たどししまい	多度志町	多度志神社境内	新暦9月	多度志神社例大祭	富山県	大正2年、秩父別町に入植し、大正4年多度志に移った赤岩太一郎が富山県東砺波郡上平村猪谷の出身で、同年の多度志神社秋祭りに舞を奉納したに伝わる獅子舞を伝承した。	多度志獅子舞保存会	空知の文化財シリーズ10「空知の指定文化財」	市
108	空知	深川市	風流	納内町狸々獅子舞	おさもない ちようじょうじょうしまい	納内町	納内神社境内	新暦9月	納内神社例大祭	香川県	納内に入植した屯田兵が香川県の狸々獅子舞を明治40年に受け継いだ。	納内町狸々獅子舞保存会	空知の文化財シリーズ10「空知の指定文化財」	市
109	空知	南幌町	神楽	仙台神楽	せんたいかぐら	石川開墾地	南幌神社	新暦9月15、16日	八幡神社祭	宮城県	明治27年、南16線西6号の八幡神社遷葬所の建立と同時に石川邦光集團長の郷里宮城県角田市の八幡神社に奉納されていた仙台神楽の振りまわて始まった。	休止	石川部落史、南幌青年史	
110	空知	長沼町	風流	長沼町勇獅子舞	ながぬまち ゆうししまい	9区	長沼神社境内	新暦9月15日 旧暦8月21日		富山県	富山県水見地方からの開拓移民により伝承され昭和2年小笠原時成が衣装道具一式を寄付したことが基となった。	長沼町勇獅子舞保存会	ビデオ(町)	町
111	空知	栗山町	風流	栗山親子獅子舞	くりやまおやし しまい	桜丘	町内巡演 栗山天満宮境内	新暦9月25日	栗山天満宮例大祭	富山県	昭和5年富山県出身者が郷里から導入。	栗山親子獅子舞保存会	獅子舞ものがたり「ふるさとに舞う」栗山親子獅子舞60年記念	町
112	空知	栗山町	その他	中里盤持	なかさとばん ぼち	中里	中里公民館	新暦11月第三土、日		富山県	昭和初期、富山県城端町に催しを同県出身者の栗山在住者が導入。	栗山町中里盤持保存会(休止)		
113	空知	栗山町	風流	角田獅子舞	かくたしまい	角田	角田地域 角田神社境内	新暦1月 新暦9月	角田神社秋季祭典、元旦祭	香川県	香川県の讃岐地方の獅子舞が元祖で現深川市無形民俗文化財「狸々五段くずし舞」が母型。新しい発想による「足ねぶり」「浮かれ獅子」「かがり火舞い」が創作され伝承されている。	角田獅子舞保存会(休止)		町
114	空知	新十津川町	風流	新十津川町獅子神楽	しんとつかわ ちようししかぐら	新十津川	新十津川神社境内	新暦9月4日		富山県	明治41年、戦後の類焼風潮を憂う富山県出身者が村祭りに寄与しようとして東砺波郡利賀村の舞の練習を重ね村神社に奉納した。更に大正5年高岡市立野からの移住者により新派の舞が加わった。	新十津川町獅子神楽保存会	獅子神楽100年記念誌	町
115	空知	新十津川町	風流	祝賀の踊り	しゆくがのおどり	新十津川	新十津川神社境内	新暦9月4日		奈良県	母村に伝わるおどりや唄を継承していたが、戦後衰退し昭和55年に保存会ができ、全町の移住各地のおどりも合わせて継承している。	新十津川町おどり保存会	おどり保存会創立20周年記念誌	
116	空知	妹背牛町	風流	獅子舞	しまい	3区	妹背牛神社境内	秋祭り時期		富山県	富山魚津黒部方面の沿岸に伝えられた獅子で越後獅子の流れと合流して出来た。	妹背牛町獅子舞保存会	ビデオ(町)	町
117	空知	秩父別町	風流	滝の上獅子舞	たきのうえしまい	滝の上				富山県	富山県上平村において伝承されてきた神事の奉納舞で、富山県人により伝承されている。	滝の上獅子舞保存会(休止)	録音テープ	町
118	空知	秩父別町	風流	ちくし神楽獅子舞	ちしかぐらし しまい	筑紫	秩父神社	新暦9月	神社祭	香川県	明治38年香川県三豊郡に伝わる神楽。獅子頭を取り寄せ青年に伝授。戦後市街地の名前をとって筑紫神楽獅子舞と命名。	ちくし神楽獅子舞保存会	ビデオ(各神社の舞の記録)	町
119	空知	北竜町	風流	真竜獅子舞	しんりゅうしまい	北竜町	町内巡演	新暦9月10日	真竜神社秋季祭典	北海道	昭和2年真竜神社が村社に認可された記念として五穀豊穡、家内安全を祈願して奉納し創設された。越中富山獅子の赤獅子と四国淡路獅子の青獅子の流れをくんで構成されている。	真竜獅子舞保存会	真竜獅子舞、真竜神社史	町
120	空知	雨竜町	神楽	雨竜町獅子神楽	うりゅうちよう ししかぐら	雨竜町	雨竜神社、町内巡演	新暦9月14、15日	雨竜神社秋季例大祭	富山県	富山県より雨竜開拓のため移住した人により伝承され、長年の風土により雨竜独特の舞として継承されている。	雨竜町獅子神楽保存会	雨竜町史	町
121	空知	沼田町	風流	沼田越中獅子舞	ぬまたえっ ちようしまい	沼田市街地	町内巡演	新暦9月10日	沼田神社例大祭	北海道	昭和8年頃災難厄払いのため獅子舞を創設。沼田町開拓者の出身地を被せ名称設定した。	沼田越中獅子舞保存会	沼田町史	
122	空知	沼田町	風流	本願寺越中獅子舞	ほんがんに えっちようしまい	北竜地区	町内巡演	新暦9月7～9日	北竜神社例大祭	富山県	北竜入植者が明治34年富山県砺波郡青島より買い求め今日まで伝える。	本願寺越中獅子舞保存会(休止)	本願寺越中獅子舞保存会記録	町
123	空知	長沼町	風流	長沼町田植歌踊り	ながぬまち うたうたおどり	北市区	北長沼小学校	4月、6月、11月		秋田県	大正時代、秋田県出身の教員が地元の女子青年団に指導したことが始まりとなり、戦争により永く休止していたが、平成に入り保存会が設立され伝承されている。	長沼町田植歌踊り保存会		
124	空知	長沼町	風流	長沼百年太鼓	ながぬまひゃ くねだいか	長沼町	町内巡演 長沼神社	8月、9月、11月、1月		北海道	長沼町の開基百年を記念し新しく創設された郷土芸能。	長沼百年太鼓保存会		
125	空知	奈井江町	神楽	備中神楽	びつちゅうかぐら	奈井江町	奈井江町文化祭	11月上旬	奈井江町文化祭	岡山県成羽町【現高梁市】	友好都市の岡山県成羽町【現高梁市】との文化交流の一環として伝承。	奈井江町備中神楽伝承保存会	奈井江町百年史	
126	上川	旭川市	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしき ぶよう	北門町ほか	不定	不定		北海道		旭川チカフニアアイヌ民族文化保存会	民俗芸能調査報告書 旭川市の民俗芸能	国

127	上川	旭川市	風流	旭川獅子舞	あさひかわし しまい	東光 ほか	上川神社 境内 ほか	新暦7月 21.22日ほか	上川神 社祭礼	富山県	富山県黒部市釈迦堂(旧下新川郡東布施村字釈迦堂)で行われていた獅子舞に由来するものといわれる。 大正7年、永山村牛朱別と東旭川村公有地の青年によって上川神社御役青年会が発足、神楽奉仕等を行っていたが、東旭川公有地には富山県出身者が多く、獅子舞を覚えているものも多いため、青年会役頭の岡本久次郎が世話役となり、石持源作を師匠として氏の故郷、富山県下新川郡東布施村釈迦堂部落に伝わる獅子舞を行うこととした。 昭和2年の暮れからひと冬かかって練習、翌3年7月の例祭から上川神社御役青年会獅子組として御神幸行列に参加した。 昭和6年、御役青年会の永山班も獅子舞を練習し始めたので、同年4月、あらたに上川神社奉仕青年会獅子舞部規定を定め、獅子舞部を東旭川組・永山組の2班に分け、各部員を16名とした。永山組の御神幸式の獅子舞奉仕は昭和8年からという。 昭和18年、氏神社のことは氏子で奉仕すべしとの当時の足立市長の強い要請もあり、同年11月23日新嘗の日の上川神社奉仕青年会は解散、獅子舞は東旭川村公有地の部員のみで続けられ、その後上川神社獅子舞部として現在に至っている(柴田直孝「郷土芸能上川神社の獅子舞」『豊談』昭和44年7月号)。	上川神社獅子舞部	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
128	上川	旭川市	風流	神楽獅子舞	かぐらししまい	西神 楽	神楽神社 境内 ほか	新暦9月ほ か	神楽神 社祭ほ か	富山県	富山県入善町小瀬戸村(旧下新川郡小瀬戸村)の獅子舞に由来するものといわれる。 富山県下新川郡小瀬戸村から神楽村西御料地に移住した佐竹清次郎、柳沢竹次郎、佐竹安次郎のうち、佐竹清次郎は小瀬戸村でも一、二を争う笛の名手、柳沢は獅子踊りの名手であった。 彼らは開拓の合間に、金田菊次郎、武田次郎吉、平田栄治郎、小路直次郎、山田宅次郎、谷口定右門、柳沢甚吉らに獅子舞を指導、明治31年に神楽神社の秋祭りで神前奉納したのがこの獅子舞の始まりである。翌32年には、獅子、小犬狗など12人編成と本格的な体制となった。 その後、昭和19年までは青年団で伝承してきたが、戦後は青年団も解消されて、獅子舞の道具も物置に入れたままになっていた。しかし、昭和22年8月10日には保存会が結成され、現在に至っている(平田幸作「聖和獅子舞の由来」『回顧録しこく』昭和55年)。 現在市立聖和小学校がある聖和地区と呼ばれた地区を中心に伝承されたことから、かつては聖和獅子舞とも称した。	神楽獅子舞保存振興会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
129	上川	旭川市	風流	永山獅子舞	ながやまし しまい	永山	永山神社 境内 ほか	新暦7月1日 ほか	永山神 社例祭 ほか	富山県	富山県黒部市若栗地区の獅子舞に由来するものといわれる。 富山県出身で踊りの好きな永山村在住の山瀬毛一、平沢作次郎、宮崎新作、谷野幸治郎ら青年たちが、昭和4年に当麻村に住む富山県出身の砂田氏のところへ三十余日自転車通いで習得したものである。 昭和39年には保存会を結成し、金町的に募金をつりの保存維持につとめてきた。	永山獅子舞保存会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
130	上川	旭川市	風流	豊田獅子舞	とよたししまい	東旭 川町 豊田				富山県	永山獅子舞の流れをくみ、富山県黒部市若栗地区の獅子舞に由来するものである。 豊田在住で永山村出身の成瀬清作は、永山獅子舞に所属していたが、戦後間もないころ地区の会合でこの獅子舞が披露された。これがきっかけとなり、成瀬を中心に地域の人々により豊田獅子舞が創始されることとなった。 昭和22年8月5日より練習が始められたが、笛も太鼓もなく、もっぱら成瀬の口音頭と、醤油樽を太鼓代わりにして毎夜練習を重ねた。ときには永山までも出かけて練習し、9月5日の豊田の秋祭りに向けて仕上げを急ぎ、当日は永山獅子舞から道具一式を借りて豊田八幡神社で奉納舞を行った。 この舞に地区の人々は感激し、世話人(寒川正忠、坂井登一、坂井七五三吉、諸端松太郎、森定博、鈴木茂喜)を結成して後援にあたることになった。昭和23年8月の東旭川村の旭川神社祭には、道具は永山獅子舞から借り受けたものの、衣装は新調して獅子舞の奉納を行った。旭川神社には獅子舞組がないので、以後旭川神社獅子舞組として活躍する事になった。	豊田獅子舞組	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
131	上川	旭川市	風流	福島踊り	ふくしまおどり	東旭 川町 瑞穂、 米原	太田神社 ほか	新暦9月ほ か	太田神 社まつり ほか	福島県	福島県伊達郡保原町(旧伊達郡大田村)の盆踊りに由来するものといわれる。 明治31年、福島県伊達郡大田村、保原町、伏見村、関本村他5町村から移住し一帯として53戸132人がペーパン(現在の米原、瑞穂地区)に移住、つづいて32年、33年にも数十戸が入植した。 この人々に伝承されて来たのが現在のペーパン福島踊り、一時期すたれていたが、昭和52年、東旭川町開拓80周年記念式典に郷里保原町の人々を招いておどったのがきっかけで再び盛り上がりを見せている。	ペーパン福島踊り保存会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
132	上川	旭川市	風流	越中盆踊り	えっちゅうほ んどおり	東蘆 橋	不定	新暦8月		富山県	富山県下新川郡宇奈月町愛本の盆踊りに由来する。 昭和28年、旧松江藩主の松平直亮伯爵は蘆橋村に松平農場を開いたが、ここに入植した300戸以上の農民の多くは富山県出身であった。 この人々は、入植以来毎年8月7日から17日までのあいだ故郷の越中盆踊りを踊り、伝えてきた。昭和12年5月の農場解放の時には、松平伯爵夫妻を迎えて興国神社境内において解放記念式典が挙行されたが、その際、富山出身の若者約150人が越中踊りを踊り、大変喜ばれたという。 しかし、そのころから盆踊りは北海よされ節(現北海盆踊り)が主流となり、揃いの装束が必要で習得の難しい越中踊りは踊られることもなくなかった。 昭和36年の東蘆橋町開基70周年記念式典の際、富山県からの入植者の2世で、子供のころ大人に混じって踊りを習い覚えた松倉竹次郎氏が中心となって越中踊りを復活、披露、さらに昭和46年の旭川市、東蘆橋町の合併記念式典の際にも披露して、これを機に保存会を結成、現在に至っている。 現在伝えられる越中踊りは、松倉竹次郎氏が、宇奈月町愛本から入植した両親のうち、母の故すき氏が伝えたと元になっている。	東蘆橋越中盆踊り保存会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能
133	上川	旭川市	風流	雨紛囃子	うぶんばやし	神居 町雨 紛ほ か	不定	新暦8月ほ か	雨紛神 社例大 祭ほ か	埼玉県	埼玉県新座市大和田(旧大和田町大和田)に伝わる大和田囃子に由来する。 昭和20年8月8日、終戦間際に東京方面から緊急開拓団23戸が当時の神居村の共栄地区に移住したが、その中に埼玉県大和田で役場の用務員をつとめながら大和田囃子の中心人物として活躍していた高橋剛三郎がいた。 高橋は早速開拓団の子供たちを集めて囃子を手ほどきし、21年9月には雨紛神社の秋の祭典に奉納、雨紛囃子と命名した。この時の構成は、高橋を師匠として10才から14才までの子供7人であった。翌22年8月8日の入植2周年記念式典の際には、締太鼓2個を買い入れ、部落会館前に屋台を建てるなど、開拓団をあげて応援にあたった(保存会所蔵資料)。 その後開拓団の中だけで伝承されていたが、後継者不足から雨紛地区住民に伝承を呼びかけ現在に至っている。	雨紛囃子保存会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能

134	上川	旭川市	風流	嵐山笠踊り	あらしやまかさおどり	江丹町嵐山ほか	不定	不定期	北海道	大正期に嵐山地区で創始されたものである。明治40年春、上原萬吉が徳島県から父母と共に上川郡鷹栖村下江丹別(現嵐山)所在の田中農場に小作人として移住、大正10年名寄市に再移住した。その後、毎年盂蘭盆には父母の墓参りに下江丹別を訪れていたが、大正14年8月に訪れた際、仕事の合間に師匠について習い覚えた民謡等を村内青年に指導した。青年らは納屋に集まって1週間ばかりで八木節、安来節、輪縁江節、機節、花笠節を習得、またこのときの習得者は、歌及び振り付けが加藤保男、太鼓が神野忠夫、笛が松木首五郎、踊りが加藤忠義、牧野三義であったが、彼らは早速9月1日、9月2日の村の氏神の祭りの余興として踊り等を披露した。これが意外と好評であったため、機会あるごとに練習を重ね、翌年からは神居、神楽方面からも大勢見物客が訪れるようになった。昭和初年には、神居、雨粉、鷹栖、伊納等各地で依頼されて余興の舞台を踏み、産育連芸能大会でも幾度も優勝したという。その後昭和8年には、現嵐山小学校前に舞台装置付き青年会館を建設した(昭和54年9月16日付、加藤保男、神野忠夫記録保存会蔵)。現在では、八木節(補足1)に合わせて踊る笠踊りだけが伝承されてきており、地元の嵐山中学校の生徒を中心に後継者の育成が行われている。	嵐山笠踊り保存会	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能		
135	上川	旭川市	風流	越中踊り	えっちゅうおどり	永山町			富山県	富山県出身者が大正10年に伝えた。	廃絶	民俗芸能調査報告書旭川市の民俗芸能		
136	上川	士別市	神楽	日向神代神楽	ひなたじんだいかぐら	多寄町	不定(保存会は解散したが、愛好会が地域の文化祭等で舞を披露している)	9月8日 11月3日	多寄中学校文化祭、多寄町文化祭	岩手県	岩手県の人により創始された。	日向神代神楽愛好会	日向神代神楽パンフレット	
137	上川	名寄市	その他	名寄市太子講	なよろたいしこう	名寄市	清満寺聖徳太子堂境	新暦6月14,15日	聖徳太子祭	北海道	太子像を製作依頼し名寄に持ち帰り大正3年に太子堂を建立。毎年6月15日を祭礼の日とし、獅子舞を奉納している。	名寄市太子講保存会	ビデオ(保)	
138	上川	富良野市	風流	富良野獅子舞	ふらのししまい	学田三区ほか	富良野神社境内、市内巡演	新暦8月25日	富良野神社祭	富山県	前身は富良野市街の北に隣接する学田三区に伝承された「学田三区獅子舞」。明治42年7月、天満宮境内に北大第八農場の成聖記念碑が建立されることになり、この除幕式に奉納されることとなったのが初公演である。	富良野獅子舞保存会	ビデオ	市
139	上川	鷹栖町	風流	北野神社獅子舞	きたのじんじあししまい	北野	北野神社境内	新暦8月4日	北野神社例大祭	富山県	川辺源三郎氏が富山県から移住後、金沢橋原天満宮の獅子舞に由来する富山県旧東野尻村加て砺波郡神明社に奉納していた旧東野尻村加の西方獅子(雄獅子)を譲り受けた。	北野神社獅子舞保存会	ビデオ(保)	町
140	上川	愛別町	風流	愛別岐阜獅子神楽	あいべつぎふししかぐら	愛別	愛別神社境内ほか	新暦6月	愛別神社祭ほか	岐阜県	明治28年、岐阜県大野郡荏刈村ほか4村から入植した人たちが県社白山神社に伝わる舞を移植。	愛別岐阜獅子神楽保存会	愛別町一二〇年記念史	町
141	上川	美瑛町	風流	神楽獅子舞	かぐらししまい	美瑛町	美瑛神社境内	新暦7月25日		富山県	昭和13年富山県久目氏で習得した神楽獅子を青年団に移植したのが始まり。	美瑛獅子舞保存会	美瑛町文化連盟創立四十周年記念誌	
142	上川	美瑛町	風流	美瑛白金太鼓	びえいしろがねだいこ	美瑛町	不定	不定期	北海道	昭和50年、太鼓愛好会として発足。	美瑛白金太鼓	美瑛白金太鼓括成十周年誌		
143	上川	中富良野町	その他	雅楽	ががく	中富良野町	法楽寺ほか	不定期		北海道	法華寺雅楽団は日常の仏事に当たり精神法儀を通して檀信徒との和を図り寺院の隆盛と共に社会浄化を求めて昭和9年発足。	中富良野雅楽会	雅楽創立五十周年記念誌	町
144	上川	中富良野町	風流	津軽獅子舞	つがるししまい	中富良野町	中富良野神社町内	新暦9月4日		青森県	昭和28年創始。明治34年青森県から伝えられたものである。	津軽獅子舞保存会		町
145	上川	南富良野町	風流	幾寅獅子舞	いくとらししまい	幾寅	町内一円	新暦9月17日	南富良野神社祭	富山県	富山県から伝来した越中獅子であり、明治36年恵光寺住職などにより創始。寺の獅子として親しまれる。	幾寅獅子舞保存会	南富良野町史	町
146	上川	占冠村	神楽	占冠神楽	しむかつぶかぐら	中央	不定	不定期	広島県	明治末、広島県からの移住者が郷里の芸能を占冠に移したのがはじまり。演目は八幡と大蛇の2曲。	占冠神楽保存会	占冠村史		
147	上川	朝日町	士別市	風流	瑞穂獅子舞	瑞穂	町内一円	新暦8月25日 9月2日 11月3日他	朝日神社祭、じゃんじゅりー文化祭ほか	北海道	瑞穂地区で継承されてきた無形文化財「瑞穂獅子舞」は、大正5年に奥土別神社祭へ五穀豊稔の祈りと、悪魔払いの願いをこめ奉納したのが起源とされ、発足から100年以上の歴史がある。	瑞穂獅子舞保存会	瑞穂獅子舞100周年記念誌 ビデオ(保)	市
148	上川	風連町	名寄市	風流	風連獅子舞	下多寄	下多寄神社境内	新暦9月6日	下多寄神社祭典	富山県	富山県東砺波郡五箇山から移入。	風連獅子舞保存会	風連獅子舞の沿革史	市
149	上川	下川町	風流	上名寄郷土芸能	かみなよるきょうどげいのう	上名寄	不定	不定期	岐阜県	明治34年岐阜県郡上郡高鷲村からの入植者が移植。	上名寄郷土芸能保存会	下川町の文化財集2集、第3集	町	
150	上川	東川町	風流	越中おどり	えっちゅうおどり	東川町	不定	不定期	富山県	以前からあった「越中踊り保存会」は高齢等により解散したが、平成9年子どもたちに伝承するため「同 子供保存会」が発足。	越中踊り子供保存会			
151	上川	東川町	風流	羽衣太鼓	はごろもたいこ	東川町	不定	不定期	北海道	昭和44年6月「パチクラブ」として発足、10月「羽衣太鼓」と命名、平成21年保存会となる。	東川町郷土芸能羽衣太鼓保存会	羽衣太鼓40周年記念誌 羽衣太鼓50周年記念誌		
152	上川	剣淵町	神楽	剣淵神楽	けんぶちかぐら	剣淵町	町内一円	新暦7月12日	剣淵神社祭	岐阜県	岐阜県郡上郡高鷲村の白山神社に伝わる神楽に由来。	剣淵神楽保存会「剣龍会」	剣淵町史	
153	上川	富良野市	風流	越中伝承山部獅子舞	えっちゅうでんしょうやまべししまい	山部	山部神社境内 山部地域巡演	新暦9月8日	山部神社祭	富山県	富山県移住者により昭和初期から伝承、毎年9月の山部神社例大祭に奉納される。昭和44年に保存会が設立。	山部獅子舞保存会	山部町史	
154	上川	富良野市	風流	富良野弥栄太鼓	ふらのいやさかだいこ	富良野市	富良野神社境内ほか	新暦8月25日ほか	富良野神社祭 北海へそ祭り	北海道	昭和48年に農業青年によって結成、同年の富良野市開基70周年記念式典で初演。同62年には少年部を設立、青少年の健全育成も担う。	富良野弥栄太鼓保存会	団体記念誌	
155	上川	富良野市	風流	北海へそ踊り	ほっかいへそおどり	富良野市	富良野市街地	7月28,29日	北海へそ祭り	北海道	北海道中央経緯度観測標(北海道中心標)をモチーフに創作された郷土芸能。昭和44年に第1回北海へそ祭りが開催、すずらん商店街が考案した図腹スタイルが現在に引き継がれる。同54年に保存会が設立。	北海へそ踊り保存会	富良野市史第3巻	
156	上川	東神楽町	風流	義経桜太鼓保存会	よしつねざくらだいこぼそんかい	東神楽町	不定	不定期	北海道	昭和45年に発足。	義経桜太鼓保存会			
157	上川	和寒町	信仰、神楽	和寒神社稚児舞	わさむじんじやちごまい	和寒町	和寒神社	新暦8月24日	和寒神社例大祭	北海道	昭和13年、神社創立時に初めて奉納された。和寒神社の特殊神事として伝統を受け継ぎ伝えている。	和寒神社稚児舞奉納婦人会	和寒の文化財	町
158	上川	幌加内町	風流	幌加内獅子舞	ほろかないししまい	幌加内町			岐阜県	岐阜県から入植した人たちが、大正末期から昭和初期にかけて故郷を偲んで神社に奉納。	幌加内獅子舞保存会(休止)			

159	留萌	留萌市		風流	礼受子供神楽	れうけこもかぐら	礼受	不定	不定期		青森県	明治19年、下北半島から鯨漁のために移住してきた人々により移植。昭和35年保存会の設立と共に復活。	留萌礼受子供保存会(休止)	留萌文化史、ビデオ	
160	留萌	留萌市		神楽	留萌岩戸神楽	るもいわとかぐら	春日町	不定	不定(随時)	留萌神社祭	青森県	青森県から来流した住民(大工の親方)が伝承し同業者らによって定着させた。大正10年以降本格的となる。	留萌岩戸神楽保存会	留萌文化史、ビデオ	
161	留萌	留萌市		風流	幌糠町郷土獅子舞	ほろぬかちょうきよようどししまい	幌糠町	幌糠神社境内祭事	新暦8月下旬、9月中旬		富山県	明治33年ころ郷里の越中地方に伝わる大獅子を導入、青年会を結成して鎮守の神前に獅子舞を奉納した。	幌糠町郷土獅子舞保存会(休止)	留萌文化史、ビデオ	
162	留萌	留萌市		風流	樽真布祭典奉納獅子舞	たるまっぶさいてんぼうのうししまい	樽真布	八幡神社境内	新暦9月中旬	八幡神社祭	富山県	明治38年富山県から入植した故岩腰義市がざるを頭に風呂敷のかやで獅子を作り、笛の音を口ずさみながら踊ったのが原型とされる。	留萌市樽真布祭典奉納獅子舞(休止)	留萌文化史	
163	留萌	増毛町		神楽	雄冬神楽	おふゆかぐら	雄冬	雄冬神社	新暦1月2日	雄冬神社祭	北海道	明治初期白髪の老人が当時の青年達に教示した座敷神楽を原型に、明治12年愛好会「敬神会」が発足伝承されてきた。	雄冬神楽保存会	歌本(明治初期)(保)、ビデオ	町
164	留萌	小平町		神楽	松前神楽	まつまえかぐら	鬼鹿	鬼鹿蔵島神社社殿、鬼鹿地区一円	新暦7月2~4日	鬼鹿蔵島神社例大祭	北海道	明治36年、道南より常磐井武胤を招き23座の神楽を斉行したとの記録がある。	鬼鹿松前神楽保存会	遷座祭神楽式記録、神歌写し	国
165	留萌	小平町		その他	鬼鹿ニシン沖揚音頭	おにしかにしんおきあげおんど	鬼鹿				北海道	明治初期建網漁を行う際に円滑な作業を行う作業歌として唄われたのが始まり。伊勢神宮の御木曳式の木遣り唄が原型とされる。	鬼鹿ニシン沖揚音頭保存会(休止)		
166	留萌	羽幌町		風流	平越中獅子舞	たいらえっちゆうししまい	平地区				富山県	明治33年富山県東砺波郡平村からの移住者たちが手作りの獅子頭で舞ったのが始まり。	平越中獅子舞保存会(休止)	羽幌の文化	町
167	留萌	羽幌町		風流	中央越中獅子神楽	ちゅうおうえっちゆうししかぐら	中央				富山県	明治29年富山県新川郡魚津より移住した人たちが始める。	中央越中獅子神楽保存会(解散)		町
168	留萌	羽幌町		風流	羽幌加賀獅子舞	いはほろかがししまい	前浜	町内一円	新暦7月9.10日	羽幌神社祭	石川県	大正11年鯨漁とともに石川県内灘町から伝えられる。豊漁祈願から、羽幌神社に奉納。	羽幌加賀獅子舞保存会	ビデオ(保)	町
169	留萌	羽幌町		風流	羽幌赤坂奴舞	いはほろあかさかやっこまい	幸町	羽幌町神社境内	新暦7月9.10日	羽幌神社祭	富山県	大正12年ころに鯨漁のため富山県から網元が漁期に道具を持ち寄っていたものを漁民たちが手ほどきを受けたのが始まり。	羽幌越中赤坂奴保存会		町
170	留萌	羽幌町		神楽	天売松前神楽	てうりまつまえかぐら	天売島				北海道	明治34年ころ、天売島蔵島神社に奉納されたのが始まり。伝承経路は不明。	天売松前神楽保存会(解散)	ビデオ(町)	町
171	留萌	羽幌町		風流	祭礼笛太鼓	さいれいふえたいこ	栄町	町内一円	新暦7月9.10日	羽幌神社祭	北海道	明治の後期、赤坂奴と共に伝承された。	祭礼笛太鼓保存会	録音テープ	
172	留萌	羽幌町		風流	オロロン太鼓	おろんたいこ	羽幌町	町内一円	新暦7月9.10日 不定期	羽幌神社祭ほか町内行事等	北海道	昭和48年6月設立。羽幌発祥の和太鼓。町の事業やイベントに積極的に参加し、青少年の育成に努力し町の郷土芸能として定着。	オロロン太鼓の会		町
173	留萌	羽幌町		神楽	神楽舞・筑子唄	かぐらまいこきりこうた	羽幌町平	町内一円	不定期	羽幌町中央公民館ほか	富山県	神楽舞と筑子唄は羽幌町宇平の母村である富山県東砺波郡平村(越中五箇山)に伝わる古代民謡で、同村上製にある国の重要文化財白山宮の神事舞である。昭和51年の平越中獅子舞の源流調査がきっかけとなり、富山県平村との交流によって昭和54年9月4日に保存会が設立。同年9月11日に友好町村となる。昭和60年9月13日に母村平村白山宮に筑子唄謡を奉納し、国内初の分家として認証書を授けられ現在に至る。	羽幌町筑子唄保存会	(保)DVD	
174	留萌	初山別村		風流	有明獅子舞	ありあけししまい	初山別村	有明八幡神社境内	新暦9月14日	有明八幡神社例大祭	富山県	明治31年富山県から入植した人たちが自分たちの郷里の獅子舞を伝承するため道具を購入し、明治38年から神社に奉納している。	初山別村郷土民芸保存会(休止)	ビデオテープ(保)DVD	村
175	留萌	天塩町		風流	越中獅子舞	えっちゆうししまい	天塩町	天塩蔵島神社境内	新暦7月16,17日		富山県	昭和17年、富山県射水郡新湊市から移住してきた人たちが中心になり郷里の獅子舞を奉納したのがはじまり。	天塩町越中獅子保存会		
176	留萌	苫前町		風流	苫前町くま獅子舞	とままえちょうくまじしまい	三深	苫前町公民館	不定期		苫前町	苫前町宇三溪地内(通称六線沢)で大正4年12月、冬眠を逸した1頭のヒグマが空腹から狂暴性を発揮し、10人の婦女子を殺傷した事件を素材とした郷土芸能である。	苫前町くま獅子保存会	苫前熊事件(資料)及び紙芝居	町
177	宗谷	枝幸町		風流	上音標獅子神楽	かみおとしべししかぐら	上音標	上音標神社境内		上音標神社秋祭り	岐阜県	大正5年に上音標入植記念として郷土紀州熊野神社を建立して7年に獅子神楽が奉納された。道具類は岐阜県から取り寄せた。	上音標獅子神楽保存会(休止)	枝幸町の文化財	町
178	宗谷	枝幸町		その他	枝幸沖揚音頭	えさしおきあげおんど	山臼				北海道	ニシン漁が盛んな時期に漁場の労働歌として伝承された。			
179	宗谷	利尻富士町		風流	南浜獅子神楽	みなみはまししかぐら	利尻富士町鬼鷹南浜	北海道まつり会場	7月末		富山県	明治期、ニシン漁撈に従事するため島に渡った富山県出身の漁夫によって演じられた。以来、南浜の人びとによって舞われ、現在では保存会を中心におもに鬼鷹の人びとによって舞われている。また、地元の小学生にも伝承指導を行なっている。	南浜獅子神楽保存会	映像・写真(町保有)	町
180	宗谷	利尻富士町		その他	鯨沖揚音頭	にしんおきあげおんどげおんど	鯨泊				北海道	ニシン漁が盛んな時期に漁場の労働歌として伝承された。	鯨沖揚音頭保存会(休止)	ビデオ(町)	
181	宗谷	礼文町		風流	四ヶ散米舞行列	しさがこまいぎょうれつ	香深	香深地区全域	新暦7月15日	蔵島神社例大祭	北海道	大正11年、蔵島神社第3代常磐井武四郎宮司の就任により伝承された。福島町蔵島大神宮由来の行列で、神輿渡御の際に先導役を務める子供の行列である。	四ヶ散米舞行列保存会	映像・写真(町保有)	町
182	宗谷	利尻町		その他	鯨沖揚音頭	にしんおきあげおんど	音形				北海道	ニシン漁が盛んな時期に漁場の労働歌として伝承された。	鯨沖揚音頭保存会(休止)	録音テープ(保)	
183	宗谷	利尻町		風流	利尻麒麟獅子舞	りしりきりんじしまい	利尻町仙志	長浜神社(利尻町仙志字長浜)	新暦6月20日	仙志神社祭典宵宮祭	鳥取県鳥取市	明治41年に(1908年)に鳥取から渡ってきた麒麟獅子。すぐに途絶えたが、平成16年6月20日にほぼ百年ぶりに復活し現在に至っている。	利尻麒麟獅子舞う会	DVD	
184	宗谷	利尻町		風流	仙志志四箇散米舞行列	せんほうししがこまいぎょうれつ	利尻町仙志	利尻町仙志一円	新暦6月21日	仙志神社祭典	北海道松前町	仙志志神社祭典本祭で列をなしていたことが伝えられている。始まり年代はわからないが大正時代の写真に奴行列が写っていることから、松前町を出自とする同一性から奴行列と同時に始まったと考えられる。		写真など	
185	宗谷	利尻町		風流	利尻奴行列	りしりやっこぎょうれつ	利尻町仙志	利尻町音形一円	新暦6月25日	北見富士神社祭典	北海道松前町	明治末期に松前から赴任した宮司との繋がりによって伝承されている。大正時代から始まったと思われる。	利尻奴行列	写真など	
186	オホーツク	網走市		神楽	豊郷神社奉納神楽	とよさとじんじやほうのうかぐら	豊郷	豊郷神社境内	新暦8月1日	豊郷神社祭	宮城県	明治38、9年豊郷に入植した宮城県角田市出身者が始めた。明治42年に豊郷神社を建立し奉納したのを機会に名称をつけて伝承してきた。	豊郷神楽保存会	ビデオ(保)	
187	オホーツク	東藻琴村	大空町	風流	大進南部駒踊	たいしんなんぶこまおどり	大進	大進神社境内	新暦9月14日	大進神社祭	青森県	大正3年青森県十和田市の南部駒踊りが入植者により移されたのが始まり。	大進南部駒踊り保存会(休止)	こまおどりつうしん	
188	オホーツク	美幌町		風流	瑞治足柄奴	みずはるあしがらやっこ	瑞治	町内一円	新暦9月5日	美幌神社大祭	神奈川県	神奈川県松田町に由来する足柄奴は、昭和2年当時の美幌神社宮司三沢氏の指導で始められた。	瑞治足柄奴保存会(休止)		

189	オホーツク	津別町		風流	駒踊り	こまおどり	市街地	町内一円	新暦9月10日	津別神社大祭	岩手県	昭和12年頃岩手県南部地方の「駒踊り」を参考にして始められる。	津別神社		
190	オホーツク	端野町	北見市	神楽	豊実神楽	とよみかぐら	豊実	豊実神社境内	2月上旬	町民芸能祭	宮城県	昭和5年に宮城県から入植した門間明が郷里で身に付けた伊具地方の神楽山伏神楽を地区に人に手ほどきしたのが始まり。	豊実神楽保存会		
191	オホーツク	生田原町	遠軽町	風流	生田原獅子舞	いくたはらしまい	遠軽町生田原	生田原神社境内一円	新暦9月20日	生田原神社祭	秋田県	昭和16年生田原地区の祭礼を中心に活動開始される。	生田原獅子舞連(休止)		
192	オホーツク	興部町		風流	奴さん	やっこさん	興部町	町内一円(市街地)	新暦9月10日	興部神社祭	香川県	香川県白鳥町の白鳥神社で行われていた行列風の道中踊りが昭和5、6年頃に山地今吉により伝えられた。	郷土芸能保存会双部会		
193	オホーツク	興部町		風流	駒踊り	こまおどり	興部町	町内一円(市街地)	新暦9月10日	興部神社祭	岩手県	岩手県南部駒踊りを興部小学校長が児童向けに変えて昭和3年頃に指導したのが始まり。	郷土芸能保存会駒踊り部会		
194	胆振	室蘭市		風流	御供獅子舞	おともしまい	香川町	香川町神社境内	新暦9月15日	香川神社祭典	香川県	明治25年香川県三豊郡紀伊村(現観音寺町)から、人跡未踏の地子マイヅ村(現香川町)に久保治平氏一族が入植し開拓にあたった。その後開拓者も増え、精神的・経済的にゆとりのできた明治30年に香川町八幡神社を建立し、政田茂次郎氏を師匠として山野に自生するコクワのつるで獅子頭を作成し、9月15日の例祭に家内安全と豊作を祈願して奉納された。明治37年に香川県より久保治平氏の義弟久保勇造氏を獅子舞の師匠として招き、当時の青年に伝授し、この型が現在に伝えられている。	室蘭市郷土芸能保存会	室蘭市	市
195	胆振	室蘭市		風流	室蘭神楽	むろらんかぐら	海岸町	室蘭八幡宮境内	新暦8月14日	室蘭八幡宮例祭、御幸山神社例祭、輪西神社例祭、本輪西八幡宮例祭	新潟県	明治34年8月、新潟県三条市伝承の三条神楽が室蘭八幡宮例祭に奉納された。これを契機として三条神楽の導入が計画・実行され、大正10年には神楽講が結成された。演目33舞、うち創作神楽「鯨神の舞」がある。大正14年から昭和17年まで三条市の中山神社の神楽伶人2名を定期的に招いて地元青年に伝授され、以来今日まで伝承されている。昭和49年2月に神楽講を室蘭神楽保存会と改称し、組織を強化した。平成2年に創作神楽・鯨神の舞を60数年ぶりに復活させ、奉納された。	室蘭神楽保存会		市
196	胆振	苫小牧市		風流	勇払千人隊芸能保存会	ゆうふつせんにんたいげいのうぼぞんかい	苫小牧市	勇払地区	とまこまい港まつり、開拓先駆者慰霊祭ほか	とまこまい港まつり、開拓先駆者慰霊祭ほか	北海道	八王子千人同心が勇払地区に開墾、開拓の功績を称えたとともにその労苦を偲び、後世まで伝えていきたいという思いから、昭和48年8月1日に創立。「千人隊御会所太鼓」を地域に伝承。	勇払千人隊芸能保存会		
197	胆振	登別市		風流	札内神楽獅子舞	さつないかぐらしんまい	札内町				香川県	明治28年香川県から入植した人たちにより伝えられた。大正初期に難農が相次ぎ伝承活動が中断し、昭和56年保存会が結成されたが現在は解散した。	解散	ビデオ(保)	市
198	胆振	登別市		風流	幌別鉦山獅子舞	ほろべつこうざんしんまい	鉦山町	幌別地区	9月上旬	刈田神社例大祭	宮城県	鉦山事業が始まった明治39～大正9年にかけて、宮城県出身者が郷里を偲んで行っていたものが取り入れられた獅子舞。	幌別鉦山獅子舞保存会		市
199	胆振	伊達市		神楽	伊達市仙台神楽	だてしせんたいかぐら	関内町	伊達神社境内	新暦9月14日	伊達神社例大祭	宮城県	明治39年仙台藩一門の互理伊達家伊達邦成と家臣団の入植に由来する。	伊達市仙台神楽保存会	伊達市仙台神楽のルーツを追って	市
200	胆振	伊達市		風流	さんさ時雨	さんさしぐれ	清住町	伊達東小学校イベント会場		ふるさと芸能まつり	宮城県	明治39年仙台藩一門の互理伊達家伊達邦成と家臣団の入植に由来する。	伊達市さんさ時雨のいわれと保存会について		市
201	胆振	虻田町	洞爺湖町	風流	月浦獅子舞	つきうらしんまい	月浦	月浦神社境内	新暦9月14,15日	月浦神社祭典	香川県	明治33年月浦八幡神社の建立を機会に香川県神田村の獅子舞を取り入れたのが始まり。18の舞で構成される。	洞爺湖町無形文化財月浦獅子舞保存会		町
202	胆振	洞爺村	洞爺湖町	風流	成香神楽	なるかかぐら	成香	成香神社境内	新暦9月4日		北海道	明治37年雨乞いのために新装した神社で神楽を舞ったのが始まり。昭和53年に復活。	成香神楽研究会(休止)		
203	胆振	洞爺村	洞爺湖町	風流	香川獅子舞	かがわしんまい	香川	香川出雲神社境内	新暦9月7,8日	香川出雲神社祭典	香川県	明治36年香川地区に移住した人たちにより香川県財田に伝わる獅子舞を導入して始められた。	香川獅子舞保存会		町
204	胆振	洞爺村	洞爺湖町	風流	曙獅子舞	あけぼのしんまい	曙	洞爺八幡神社境内イベント会場	新暦9月15日	洞爺八幡神社祭典	香川県	明治22年に湖岸曙地区に入植し、獅子舞が持ち込まれた。現在までほぼ姿を変えずに継承されている。	曙獅子舞保存会		町
205	胆振	壮瞥町		風流	仲洞爺獅子舞	なかとうやしんまい	仲洞爺	仲洞爺神社境内	毎年9月上旬～中旬 10月下旬	仲洞爺神社祭典時	北海道	明治39年郷里の獅子舞が奉納されたのが始まり。	仲洞爺獅子舞保存会		町
206	胆振	壮瞥町		風流	久保内獅子舞	くぼないしんまい	久保内	久保内神社境内	毎年9月上旬～中旬 10月下旬	久保内神社祭典時	宮城県	昭和6年に創設。宮城県互理の獅子舞を伝えている。	久保内獅子舞保存会	ビデオ	町
207	胆振	白老町		風流	白老町虎杖浜越後盆踊り	しらおいちようこじようはまえちごぼんおどり	虎杖浜	町内	通年	白老港祭、登別漁港祭、地区文化祭、町文連協文化祭	新潟県	虎杖浜へ移住した新潟県人が故郷を偲び明治40年頃より踊られた。平成12年10月に町の無形民俗文化財に指定。	白老町虎杖浜越後踊り保存会	ビデオ(保)	町
208	胆振	白老町		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	高砂町	アイヌ民族博物館	通年	白老チエブ祭、ジャクシャイン法要祭、町文化祭ほか	北海道	アイヌ民族が培ってきた様々な舞踊であり、儀礼的祭りなどで踊られる自然観や信仰を反映させた芸能である。白老民族芸能保存会では、イヨマンテリムセやファンベリムセなど13の踊りを伝承している。	白老民俗芸能保存会	アイヌ古式舞踊、ビデオ「北海道	国
209	胆振	豊浦町		神楽	大岸南部神楽	おおきしんぶかぐら	豊浦町大岸				岩手県	明治期に岩手県花巻町から豊浦町大岸地区豊島に移住した金田萬四郎が大岸地区の人々に伝承。平成11年に萬四郎の子孫によって大岸地区に神楽面が寄贈される。	大岸南部神楽保存会(休止)		
210	胆振	厚真町		風流	ねつ送り	ねつおくり	軽舞	軽舞地区一円	新暦7月31日		富山県南砺市城端西明	明治35年に軽舞地域の稲が熱病にかかり大被害を受けたことから、郷里の富山県東室谷村西明村(現南砺市城端西明)の熱送り行事を取り入れたのが始まり。明治36年から地域に伝わる農業行事。昭和48年10月22日に「ねつ送り及び太鼓」が有形民俗文化財に指定されている。	軽舞農業実行組合		町
211	胆振	厚真町		神楽	幌内神楽	ほろないかぐら	厚真町幌内	幌内神社境内、田舎まつり会場(表町公園)	毎年6月第三日曜日、 新暦9月18日	幌内神社秋季例大祭 町田舎まつり本祭	岩手県花巻市湯元	明治43年に幌内神社へ獅子頭が奉納。一時途絶えていたが、昭和47年に個人宅からほら貝が見つかったのを契機に、翌年に岩手県花巻市へ5名が研修に向かい、同年の秋の例大祭にて復活。幌内神楽は昭和48年10月22日に厚真町無形文化財に指定。獅子頭も同日に有形文化財に指定されている。	幌内神楽保存会	『幌内のあゆみ』1997、『あつま再発見 歴史と文化への誘い』1997	町
212	胆振	鶴川町	むかわ町	風流	鶴川獅子舞	むかわしんまい	むかわ町	町内各戸門づけイベント会場	新暦9月14,15日	鶴川神社秋季例祭ほか	富山県	昭和6年創始。富山県西砺波郡出身者により伝承される。	鶴川獅子舞保存会		

213	胆振	鶴川町	むかわ町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	むかわ町	四季の館ほか	総合文化祭ほか	シヤカムイ、セコロカムイ、アイヌ磔カムイ	北海道	鶴川アイヌ文化伝承保存会		国
214	日高	平取町		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	二風谷	チセ(アイヌの伝統的な家屋)等	不定期		北海道	平取アイヌ文化保存会	北海道アイヌ古式舞踊唄の記録他ビデオ「北海道アイヌ古式舞踊」	国
215	日高	門別町	日高町	風流	奴踊り	やっこおどり	富川	富川地区一円	新暦6月第二日曜日	富川神社	北海道	富川奴踊り保存会	大正14年頃、小樽の三吉神社より伝わったとされる。	
216	日高	門別町	日高町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	富川	イベント会場等墓地ほか	不定期		北海道	門別ウタリ文化保存会(休止)		国
217	日高	門別町	日高町	神事	獅子舞	ししまい	門別本町	町内一円	新暦9月第一土・日曜日・祝事等	稲荷神社	富山県	門別獅子舞保存会	明治末、富山団体移住のさいに伝わったとされるが途絶する。平成9年、門別本町有志により鶴川町獅子舞保存会指導のもと復活。	
218	日高	新冠町		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	新冠町	イベント会場等	不定期祝事	イチャルバ等	北海道	新冠民族文化保存会	アイヌ民俗文化調査報告書	国
219	日高	静内町	新ひだか町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	静内地域	イベント会場等	不定期		北海道	静内民族文化保存会	北海道アイヌ古式舞踊唄の記録ビデオ	国
220	日高	三石町	新ひだか町	風流	越前踊り	えちぜんおどり	川上・歌苗地区	イベント会場等	新暦9月14,15日	歌苗神社例大祭	福井県	歌苗越前踊り保存会(休止)	「越前踊り歌・口説音頭」「越前踊り教本」ほか	町
221	日高	三石町	新ひだか町	風流	淡路豊年榊踊り	あわじほうねんますおどり	豊岡地区	イベント会場等	新暦9月11日	延出神社例大祭	兵庫県	延出郷土芸能保存会	三石町文化協会創立三十周年記念誌	町
222	日高	三石町	新ひだか町	風流	南部盆踊り	なんぶぼんおどり	富沢地区	イベント会場等	新暦8月中旬		岩手県	延出郷土芸能保存会(休止)	三石町文化協会創立三十周年記念誌	町
223	日高	三石町	新ひだか町	風流	三石獅子舞	みついししまい	越海町・港町地区	三石神社境内	新暦9月9,10日に最も近い土日	三石神社例大祭	新潟県	三石神社獅子舞保存会	三石町文化協会創立三十周年記念誌	町
224	日高	三石町	新ひだか町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	三石地域	イベント会場等	不定期(随時)		北海道	三石民族文化保存会	録音テープ(町)	国
225	日高	浦河町		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	浦河町	イベント会場等	不定期		北海道	浦河アイヌ文化保存会		国
226	日高	様似町		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	様似町	アイヌの催事場所	不定期(随時)		北海道	様似民族文化保存会	ビデオ(町)	国
227	日高	えりも町		風流	えりも駒踊り	えりもこまおどり	えりも町字本町	本町一円・住吉神社境内	新暦8月15日・9月第二日曜日(変更あり)・10月第一日曜日	住吉神社例大祭、えりも町会まつり、海と山のフェスティバル、町文化祭	岩手県	えりも駒踊り保存会勇駒会	記録ファイルビデオ(町)	町
228	日高	えりも町		神楽	襟裳神楽	えりもかぐら	えりも町字えりも岬	えりも神社境内えりも岬地区一円	新暦8月15日・9月23日	襟裳神社祭典、えりも灯台まつり、町文化祭	不明	襟裳神楽保存会	ビデオ(町)	町
229	十勝	帯広市		アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしきぶよう	帯広市	不定	不定時	アイヌ文化フェスティバルほか	北海道	帯広カムイウポボ保存会	ビデオ「十勝アイヌの唄と踊」(市)録音テープ	国
230	十勝	帯広市		神楽	大正宮神楽	たいしょうみやかがら	帯広市	大正神社境内ほか	新暦6月25日・9月8日ほか	招魂祭/大正神社秋祭ほか	北海道	大正宮神楽保存会		
231	十勝	帯広市		風流	平原太鼓	へいげんだいこ	帯広市	不定	不定時	平原祭り	北海道	平原太鼓保存会		
232	十勝	音更町		風流	十勝駒踊	とからこまおどり	駒場	駒場神社境内	旧暦8月21日・新暦9月15日		青森県	十勝駒踊保存会	ビデオ「駒踊フェスティバル」()	町
233	十勝	音更町		風流	矢部獅子舞	やべししまい	住吉	住吉神社境内	旧暦8月23日・新暦9月17日		富山県	矢部獅子舞保存会	ビデオ「郷土芸能祭」(町)	町
234	十勝	音更町		風流	東土狩獅子舞	ひがしかりししまい	東土狩	東土狩神社境内ほか	旧暦8月23日		富山県	東土狩獅子舞保存会	「花さける郷」東土狩開基記念誌	町
235	十勝	鹿追町		風流	白蛇姫舞	はくじやひめまい	鹿追町	鹿追町・然別湖畔	7月第一土曜日	白蛇姫祭り	北海道	白蛇姫舞保存会	舞心(活動記録誌)	町
236	十勝	清水町		神楽	清水仙台神楽	しみずせんだいかがら	松沢	不定	不定期		宮城県	清水町郷土芸能神楽保存会(休止)	清水の神楽	
237	十勝	中札内村		神楽	元更別大國神社石見神楽	もとさらべつおおくにじんじやいわみかぐら	元更別	上札内小学校	不定期		島根県	元更別大國神社石見神楽保存会	神楽台本(昭和37,61年当時)、ビデオ(昭和61年当時)、録音テープ(保)	町
238	十勝	更別村		風流	スッチョイサ踊り	すつちよいさおどり	勢雄区・平和区・更別区等	不定	不定期		石川県	更別村スッチョイサ踊り保存会	更別村スッチョイサ踊りビデオ、録音テープ	

239	十勝	池田町	風流	傘踊り	かさおどり	池田町	不定	随時		鳥取県	明治30、31年にかけて入植した鳥取県人によって始められ、大正時代まで踊り継がれていたがその後途絶え、昭和63年保存会が発足した。	池田傘踊り保存会			
240	十勝	豊頃町	風流	二宮獅子舞神楽	にのみやし まいかぐら	二宮	報徳二宮神社境内	新暦4月8日 新暦9月20日	報徳二宮神社祭礼	福島県	大正9年二宮神社を新築したとき福島相馬の神楽舞を舞ったのが始まり。	二宮郷土芸能保存会	豊頃町史	町	
241	十勝	本別町	神楽	本別神社里神楽	ほんべつじん じゃさとかぐら	本別町	本別神社拝殿境内	新暦9月19日		福島県	福島県からの移住者により伝えられたといわれている。昭和10年ころまで美里別中村神社で奉納されていた。	本別神社神楽会(休止)	復元楽譜 ビデオ、録音テープ(保)		
242	十勝	本別町	風流	本別駒おどり	ほんべつこま おどり	上館地区	不定	随時		青森県	青森県三本木村から導入した。十勝馬の産地であり、車馬補充部の慰安行事として駒踊りが披露されたのが始まり。	本別駒おどり保存会	ビデオテープ(保)		
243	十勝	浦幌町	風流	浦幌開拓獅子舞	うらほろかい たくしまい	吉町	浦幌神社町内一円	随時	浦幌神社夏季みこし祭ほか	富山県	明治35年、富山県から入植した笹川平次郎が中心となり、郷里の獅子舞をまねて八幡神社へ奉納したものが起源。一時中断したが戦後に再興し、昭和39年に浦幌町開拓獅子舞保存会を結成。	浦幌町史、浦幌町郷土博物館報告(第11号)ビデオ(VHS)、写真		町	
244	釧路	釧路市	神楽	釧路市鳥取麒麟獅子舞	くしろしとつとり きりんしまい	鳥取地区	鳥取神社境内市内一円	新暦9月13～15日 随時	鳥取神社例大祭	鳥取県	鳥取県因幡より移住してきた杉本新太郎、矢部春美ら5、6人が故郷で習った踊りを踊ったのが始まりで、お盆になると地域の初盆の家を回った。	釧路市鳥取きりん獅子舞	鳥取神社百年史		
245	釧路	釧路市	アイヌ民俗芸能	春採アイヌ古式舞踊	はるとりあい ぬこしきぶよう	春採	春採生活館	随時		北海道		春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会		国	
246	釧路	阿寒町	釧路市	神楽	紀ノ丘神楽	きのおかかぐら	紀ノ丘	紀ノ丘神社境内ほか	新暦6月15日 8月10日		福島県	1909年に福島県相馬市八幡から移住した佐藤交之助により伝承された。昭和50年に保存会が結成され復活。	紀ノ丘神楽保存会(休止)		市
247	釧路	阿寒町	釧路市	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしき ぶよう	阿寒湖畔	アイヌ部落チセ	随時		北海道		阿寒アイヌ民族文化保存会	阿寒アイヌ古式舞踊(昭和53年)ビデオ、8mm映像(町)	国
248	釧路	釧路市	風流	釧路鳥取傘踊り	くしろとつとり かさおどり	鳥取地区	鳥取神社境内	新暦9月13～15日 随時	鳥取神社例大祭	鳥取県	鳥取県からの移住を縁に釧路市と鳥取市は昭和38年に姉妹都市となり、これを記念して当時の高田勇鳥取市長から教授されたもの。	釧路鳥取かさ踊り保存会			
249	釧路	釧路市	太鼓	寿子ども蝦夷太鼓同好会	ことぶきこども えぞだいでこ うこうかい	釧路市	市内及び近郊市	随時		釧路市	昭和50年代、漁業を中心に栄えていた釧路市のなかでも、特に嚙化(とんけし)地区(南浜・仲浜・寿地区)は水産商業地域として中心的な存在であり活気に溢れていた。そこで地域をより盛り上げるために小学生の太鼓団体を結成しようとして北海道くしろ蝦夷太鼓保存会の協力と地域住民の尽力により昭和54年、旧釧路市立寿小学校(現中央小学校)に設立される。	北海道くしろ蝦夷太鼓保存会			
250	釧路	釧路町	神楽	遠矢神楽舞	とやおかかぐら まい	遠矢鳥通	釧路神社境内・社殿	新暦7月上旬 新暦12月31日		福島県	昭和9年、入植者が福島県原町市八幡神社に伝わる神楽舞を釧路神社に奉納したことから始まる。	遠矢神楽舞保存会	16mm映像(町)録音テープ(保)記録DVD(H20制作・町)		
251	釧路	厚岸町	神楽	厚岸かぐら	あつけしかぐら	糸魚沢	参加イベント会場	不定期	厚岸町民文化祭発表会	北海道	江戸時代末期、ニシン漁で栄えた厚岸へ東北の南部地方から渡ってきた漁師たちによって伝えられた神楽に、アイヌ民族の踊りが融合したものと伝えられる。昭和35年には後継者育成と保存・伝承のための厚岸かぐら同好会が結成された。	厚岸かぐら同好会	ビデオ、厚岸町文化財、厚岸町史、厚岸町史上巻、文化財探訪集	町	
252	釧路	標茶町	アイヌ民俗芸能	ベカンベ祭り	べかんべまつり	塘路	標茶町塘路湖畔	新暦9月		北海道	菱の実の収穫祭として行っていたもの。	休止			
253	釧路	白糠町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしき ぶよう	白糠町	イベント会場	随時		北海道		白糠アイヌ文化保存会	「白糠の文化財」白糠アイヌ古式舞踊演奏曲集」ビデオ	国	
254	釧路	白糠町	風流	白糠駒踊り	しらぬかこま おどり	白糠町	イベント会場	随時		青森県	大正8年、車馬補充部釧路支部の開庁記念日で踊られたことにはじまる。踊りは青森県の南部駒踊りをもとにした創作と伝えられている。	白糠駒踊り同好会	「白糠駒踊り保存会設立記念誌」白糠駒踊りビデオ・DVD		
255	釧路	弟子屈町	アイヌ民俗芸能	アイヌ古式舞踊	あいぬこしき ぶよう	屈斜路コタン	屈斜路コタン	新暦6月、10月	バリモモ祭り、イチャルバ、町総合文化祭	北海道	先住民の人々によって伝承され、祭祀や行事の折に歌(ウボボ)と輪踊(リムセ)を基本に基本に動物のしぐさを真似た「鶴の舞」や儀式的な「剣の舞」など多様な舞が伝承されている。信仰や生活と芸能の密接な関わりを示している。	屈斜路コタンアイヌ文化保存会	H4アイヌ古式舞踊調査報告書	国	
256	釧路	弟子屈町	風流	鑑別獅子舞	とうべつしまい	鑑別	弟子屈神社	新暦8月19、20日(神社祭)	弟子屈神社例大祭、老人ホーム慰問、そは祭り参加、町総合文化祭	富山県	明治中期、富山県からの入植者が故郷での舞をのんでおこなったものが伝承されたもの。昭和56年の調査の際にルーツとして考えられる富山県永見市十二町の獅子舞を拝見したとの記録がある。現在は奥春別小学校を中心として、活動を行っている。	弟子屈町無形文化財鑑別獅子舞保存会	弟子屈町史	町	
257	釧路	弟子屈町	風流	仁多獅子舞	にたしまい	仁多				富山県	明治中期、富山県からの入植者が故郷での舞をのんでおこなったものが伝承されたもの。昭和56年の調査により、富山県東砺波郡井波町東町の獅子舞がルーツであると考えられている。生成5年以降後継者の減少により休止状態となっていたが、平成25年度より活動を再開し、踊り等の復元作業に取り組んでいる。	仁多獅子舞保存会	弟子屈町史	町	
258	根室	根室市	風流	瑤瑤瑠獅子神楽	ごようまいし かぐら	瑤瑤瑠	瑤瑤瑠神社境内	随時	齒舞こんぶまつり瑤瑤瑠神社祭典奉納市文化祭	富山県	富山県黒部市から移住してきた人たちが伝えた。大正2年、寺の新築落成時に舞ったのが初演。	瑤瑤瑠獅子神楽保存会	瑤瑤瑠獅子神楽二十年記念誌	市	
259	根室	根室市	その他	根室女工節	ねむろじょう ぶし	根室市	イベント会場	不定期		北海道	ナット節から派生した缶詰所節が元歌とされる。明治末から大正初期にかけて唄われた。	根室女工節保存会	ねむろの唄(昭和55年発行)		
260	根室	根室市	風流	根室おどり	ねむろおどり	根室市緑町	緑町一円	新暦7月18～20日	根室盆踊り	新潟県	明治15年に越後出身の貸座敷業者らが中心となり遊郭街で踊られた。大正時代には最盛期を迎え戦後は緑町で開かれている。	根室おどり保存会	ねむろの唄(昭和55年発行)		
261	根室	羅臼町	風流	知床いぶき樽	しれとこいぶ きたる	羅臼町	知床開き等イベント会場	随時		羅臼町	昭和46年に地元青年達によって創作された、木樽と木槌による演奏。明治以来交通の不便であった本地域では、越冬用の食料を樽詰にして保管していたが、各町内会の夏の盆踊りの際には、この樽を使って拍子を取っていた。	知床いぶき樽保存会		市	

このページの情報はオープンデータとして自由に二次利用することが可能です。(GC-BY)

利用する場合には出所明示を行ってください。詳しくは[北海道オープンデータ利用規約](#)をご確認ください。

また、北海道のオープンデータは、「[北海道オープンデータポータル](#)」にも登録していますのでご覧ください。